

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
平成27年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム  
「コミュニティがつなぐ安全・安心な都市・地域の創造」  
研究開発プロジェクト  
「都市部コミュニティを含めた自助による防災力と  
復興力を高めるためのLODE手法の開発」

倉原宗孝  
(岩手県立大学総合政策学部、教授)

## 目次

|                                     |           |
|-------------------------------------|-----------|
| <b>1. 研究開発プロジェクト名</b>               | <b>2</b>  |
| <b>2. 研究開発実施の要約</b>                 | <b>2</b>  |
| 2 - 1. 研究開発目標                       | 2         |
| 2 - 2. 実施項目・内容                      | 2         |
| 2 - 3. 主な結果                         | 2         |
| <b>3. 研究開発実施の具体的内容</b>              | <b>3</b>  |
| 3 - 1. 研究開発目標                       | 3         |
| 3 - 2. 実施方法・実施内容                    | 3         |
| 3 - 3. 研究開発結果・成果                    | 34        |
| 3 - 4. 会議等の活動                       | 45        |
| <b>4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況</b>        | <b>46</b> |
| 4 - 1. 先進・先導モデルづくりと手法としての整理・位置づけ    | 46        |
| 4 - 2. 議会や行政等をととした普及展開への働きかけ        | 47        |
| <b>5. 研究開発実施体制</b>                  | <b>47</b> |
| <b>6. 研究開発実施者</b>                   | <b>48</b> |
| <b>7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など</b> | <b>49</b> |
| 7 - 1. ワークショップ等                     | 49        |
| 7 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など      | 49        |
| 7 - 3. 論文発表                         | 49        |
| 7 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）      | 50        |
| 7 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等                  | 50        |
| 7 - 6. 特許出願                         | 50        |

## 1. 研究開発プロジェクト名

都市部コミュニティを含めた自助による防災力と復興力を高めるためのLODE手法の開発

## 2. 研究開発実施の要約

### 2 - 1. 研究開発目標

- (1) コミュニティタイプ別標準的实施手法の開発
- (2) LODE実施・普及人材の育成方法とその検証
- (3) 各タイプ別実施方法を含めたLODE手法の体系化
- (4) 自助・互助力の向上を測るための、或いは自助・互助力の向上に有効と思われる指標等の開発
- (5) 個人情報の収集と管理方法に関する研究

### 2 - 2. 実施項目・内容

- (1) 被災地等におけるヒアリング調査
  - ・釜石東中学校の震災当時の生徒からのヒアリング
  - ・地域防災・福祉活動者等に対するヒアリング
- (2) モデル地区別等の第一次試行調査
  - ・中高層住宅地モデル：神戸市灘区、兵庫県伊丹市
  - ・戸建て・中高層混在型住宅地モデル：兵庫県伊丹市
  - ・子ども対象モデル：神戸市灘区、兵庫県伊丹市、京都府精華町
  - ・障害者対象モデル：三重県鈴鹿市
  - ・困窮世帯の多いコミュニティモデル：大阪市西成区、広島市中区
  - ・LODE普及コーディネーター・リーダー育成調査のためのモデル調査：兵庫県伊丹市、名古屋市、三重県鈴鹿市、大阪市
- (3) 『LODE各手法』の第一次試行調査の総括分析と第二次試行調査に向けた手法の修正検討

### 2 - 3. 主な結果

- (1) 地域コミュニティが抱える脆弱さに関する認識とLODEに求められる役割の整理
- (2) 地区の経緯やリーダー等の認識によって異なるLODE導入・実施の目的
- (3) コミュニティのタイプ分けについての考え方
- (4) LODE手法標準化の考え方
- (5) LODE実施・普及人材の育成方法についての考え方
- (6) 自助・互助力の向上を測るための、或いは自助・互助力の向上に有効と思われる指標等についての考え方
- (7) LODE手法標準化に向けた「LODEファシリテータ育成支援ツール」の試案

### 3. 研究開発実施の具体的内容

#### 3 - 1. 研究開発目標

本年度の取り組みにおいて掲げた研究開発目標は、2 - 1で述べた内容と大きく異なる点はない。また、平成26年度研究開発の取り組みで掲げた「研究開発を目指すLODE手法の骨格」（図1参照）に関しても、27年度も引き続きこの考え方の下、取り組みを進めることとした。

加えて、本プロジェクトが本研究開発領域の中において担うべき役割は、「潜在するリスクについて、コミュニティの一人一人に、より正しく認識してもらうための手法」を目指した研究開発であるということも確認している。

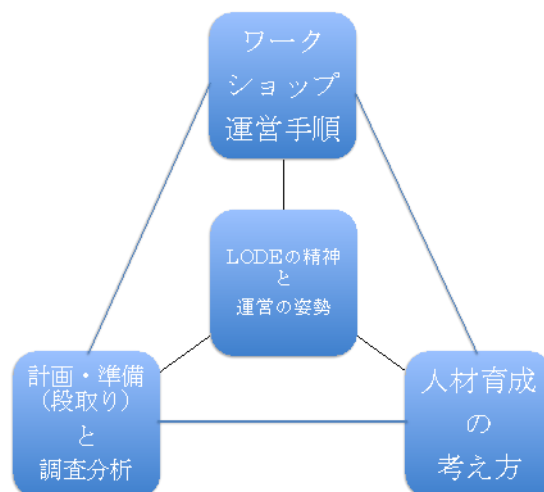


図1：研究開発を目指すLODE手法の骨格

#### 3 - 2. 実施方法・実施内容

平成27年度研究開発の取り組みの流れを4頁図2に整理した。

平成27年度は、前年度の取り組みの成果を受け、「マンションで実施するLODEワークショップ」や「子ども対象から地域コミュニティにアプローチするためのLODEワークショップ」、さらには「障害者へのアプローチするためのLODE調査」や「学校区における“つなぎ”のワークショップ」「普及者を養成するためのLODEワークショップ」等の実施方法に関する第一次試行調査等を実施した。

また、LODEを普及力ある手法とするために、被災地におけるヒアリング調査だけでなく、コミュニティにおける防災活動実践家等に対するヒアリングも実施した。

5頁～35頁の(1)～(2)において、各実施内容を報告する。

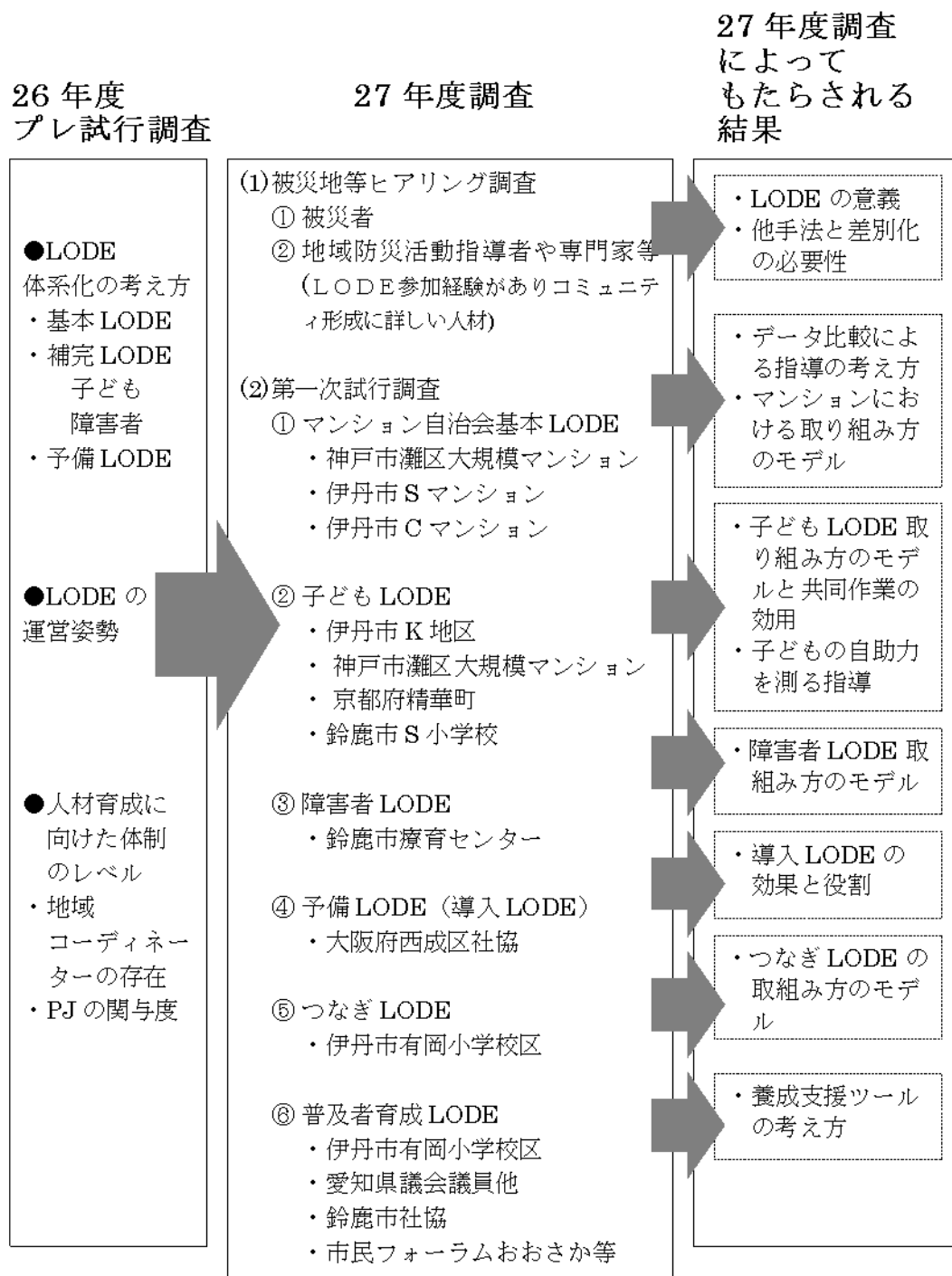


図2：平成27年度取り組みの考え方と流れ

27年度の施行調査は、平成26年度研究開発の取り組みにおいて、地域のコミュニティが自治会だけの一枚岩ではなく、町内会・自治会、子ども会、PTA、障害者家族等の異なるコミュニティが希薄なつながりの中でバラバラに存在しているのではないかという認識（図3参照）の下、進めるものである。

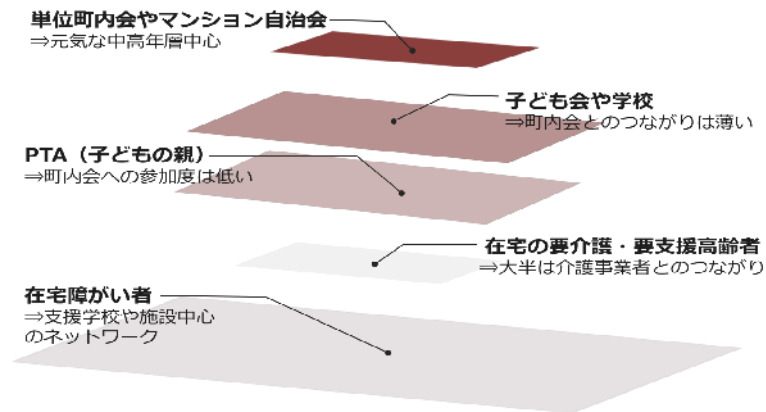


図3：バラバラな地域コミュニティ

### （1）被災地等におけるヒアリング調査

#### ①東日本大震災被災者ヒアリング

26年度は、宮城県女川町、同気仙沼市、岩手県大槌町の各仮設住宅団地において、主に中高年層からの声を拝聴したが、27年度は「釜石の奇跡」として有名な釜石東中学校の生徒（震災当時中学3年生）2名からの声に学ぶ機会を持った（2016年2月6日・7日）。

1名は、被災者であると同時に、炊き出しボランティアなどの支援者としての立場も同時に経験し、震災後は全国各地で講演をする等の経験を有していた。またもう1名は、震災時津波で親を失い、そのトラウマと戦う現状を吐露してくれた。

そして両名から異口同音に出たのが「避難所に行ったら、顔見知りの住民たちが大勢いてホッとした。知り合いたちの顔に囲まれて避難所生活を送るのと、そうでないのとでは雲泥の差がある。地域コミュニティにおける防災活動で一番大切なのは、ホッとする人間関係づくりだ」という言葉であった。

#### ②コミュニティにおける防災活動実践家等に対するヒアリング

LODEを普及力ある手法とするためには、担い手（普及者）に支持されることが肝心である。そこでコミュニティにおける防災活動指導者や防災計画指導者としての立場にある実践家・専門家数名（当プロジェクトの研究協力者を含む）から意見を聴く機会を設けた。

なお両名には、LODEワークショップの場に同席してもらった上で、意見を聴くこととした（既に2015年度に現場体験してもらっていた）。

その概要を次に報告する。

#### ● 市民参加型コミュニティづくり研究者（2016年1月30日実施：研究協力者 元千葉大学教授延藤安弘氏）

- ・ 手法の標準化をワークショップ実施手順の標準化としてのみ捉えてしまうと、手法の硬直化を招きかねないし、そうすると普及力を期待できなくなるのではないかと。手順の標準化ではなく、「効果の標準化」という視点を持つべきである。
- ・ 長く生きる手法は、変化しながら成長するものではないか。そうするためには手順の標準化ではなく「効果の標準化」という目標を掲げておくべきだ。

#### ● 地域福祉活動実務者（2016年2月7日実施：研究協力者 伊丹市社協小林氏、松下氏）

- ・ LODEワークショップでは、地域の要援護者情報を浮き上がらせることに重点を置いているようだが、それでは効果は全く十分ではないと思う。“支援される側（要

援護者）”が自らの意思でワークショップに参加するようにならないと、この図面情報は十分に機能しないと思う。

- ・ “支援される側（要援護者）”が参加しやすくなるような工夫をどう講じられるかが、LODEを一步進んだ手法にできるかどうかのポイントだと思う。
- ・ 図面ワークショップの方法を固定化するのはあまり好ましくない。たとえば凡例を固定化することもあまり意味がないと思われる。この情報は地域で集め地域が使うものなのだから、地域が使いやすい凡例を決めたほうがいい（ただ、事例としての考え方を示すのは必要だろう）。
- ・ 昨年度プレ試行調査を実施したS地区では、地区事情もあってLODE第一次試行調査の実施を希望しなかったが、その理由としては「学べき手法であることは理解できるが、それをそっくりそのまま押し付けられたくない。自分たち独自で創意工夫しながら実施したい」という声があった。ちなみに同地区では、要支援と目される高齢者の存在を示す凡例の一つとして、「詐欺や消費者被害に遭ったことのある人」という凡例を考案した。これはS地区の特徴を捉えた秀逸な工夫例だと思う。

● 地域における防災活動指導者（2016年2月25日実施：札幌市富丘少年消防クラブ指導者 K氏）

- ・ 現在市民が活用できる防災学習手法としては、DIGやHUG、さらにはクロスロード等があるが、地図を使う手法としてはDIGが代表的だと認識している。
- ・ LODEの方がより要援護者対応の視点に厚いことはわかるが、図面ワークショップだけの手法になってしまうのでは、DIGのアレンジ版としてでしか認知されないと思う。
- ・ 加えて要援護者情報を収集するだけでは意味がない。情報を生かすことのできる人材や体制があるのかが、肝心ではないかと思われる。
- ・ 現在の地域コミュニティ（特に都市部）はバラバラである。その中で、情報を生かす人、使える人を育てることを意識するべきではないか。

● 地域防災計画策定に係る専門家（2016年2月25日実施：株式会社ドーコン総合計画部 技術士 H氏）

- ・ LODEワークショップを観察した上で感想を述べるならば、確かに要援護者への視点、あるいは中高層住宅への対応など、現在普及しているDIG以上の質のものであると認識できるが、『福祉DIG』、『マンションDIG』という呼称を用いても違和感がない。
- ・ DIGを超えるLODEとして普及を図るならば、地域にとってDIGを超える特長（たとえば、要援護者への理解促進力があるとか、地域の防災活動に関してもっと“総合力・俯瞰力”のある手法とか）を打ち出していくことがベターなのではないか。

## （2）第一次試行調査

平成27年度は第一次試行調査として、12カ所の地区で計18回のLODEワークショップ・調査を実施したが、表1～表3にこれを整理した。表1は調査現場別に所在地、対象コミュニティ、実施日、所要時間、参加者数、対象エリア、タイプや狙い、キーパーソンや参画者、自力度などを、また表2及び表3ではワークショップ等調査時に用いた（導入した）メニューを整理した。

また、10頁以降では、個々のワークショップ・調査に関して報告するが、ここでは26年度報告書にて整理したLODEの体系化の考え方等に基づき、「基本LODE（自治会やマンション自治会単位）」、「子どもLODE（子ども対象）」、「障害者LODE（障害者や家族対象）」等の対象者別のLODEワークショップと、これ等を繋ぐための「つなぎLODE」、さらには普及者の養成を目指した「普及者育成LODE」に分け、報告する。

表1：平成27年度実施LODEワークショップ試行調査の状況（その1）

| 現場管理記号      | 実施年度 | 現場所在地   | 対象コミュニティ       | 実施日                   | 所要時間(分)   | 参加者数(人)       | 対象エリア：◆  |           |       |          | LODEのタイプや狙い：● |        |         |        |                     |           |        |                      | キーパーソンや参画者：※       |           |                 |              |       |      |      |       |       |          | 自力度：■             |                  |            |                     |
|-------------|------|---------|----------------|-----------------------|-----------|---------------|----------|-----------|-------|----------|---------------|--------|---------|--------|---------------------|-----------|--------|----------------------|--------------------|-----------|-----------------|--------------|-------|------|------|-------|-------|----------|-------------------|------------------|------------|---------------------|
|             |      |         |                |                       |           |               | マンション自治会 | その他の単位自治会 | 連合自治会 | 学校区または学校 | 市区町村域あるいは府県域  | 基本LODE | 子どもLODE | 親子LODE | 障害者(家族)LODE・障害者家族調査 | 防災訓練・避難訓練 | 導入LODE | つなぎLODE(住民・コミュニティ同士) | ファシリテータ・コーディネーター育成 | 啓発・広報イベント | 自治会長または自治防災組織の長 | 子ども会役員、PTA役員 | 学校、教員 | 民生委員 | 社協職員 | 行政関係者 | 議会関係者 | 企業や産業団体等 | その他NPO理事や防災ボランティア | 自主的に開催を決定し、広報をした | 自力で内容を企画した | ファシリテータやコーディネータを務めた |
| i)          | 27   | 三重県鈴鹿市  | SW小学校5年生クラス    | 2015/6/5              | 90        | 50            |          |           | ◆     |          | ●             |        |         |        |                     |           |        | ※                    |                    |           |                 |              |       |      |      | ■     |       |          |                   |                  |            |                     |
| j) 1        | 27   | 神戸市灘区   | Mマンション防災委員会    | 2015/6/14<br>2015/7/5 | 136<br>60 | 33<br>33      | ◆        |           |       |          | ●             |        |         | ●      | ●                   | ●         | ※      |                      | ※                  |           | ※               |              |       |      | ※    | ■     |       |          |                   |                  |            |                     |
| k)          | 27   | 大阪市西成区  | 社協             | 2016/6/29             | 60        | 200           |          |           |       | ◆        |               |        |         |        | ●                   |           |        |                      |                    |           | ※               |              |       |      |      | ■     |       |          |                   |                  |            |                     |
| l)          | 27   | 兵庫県伊丹市  | 子ども会           | 2015/8/22             | 240       | 子ども71<br>大人46 |          |           | ◆     |          | ●             | ●      |         |        |                     | ●         | ●      |                      | ※                  |           | ※               |              |       |      |      | ■     |       |          |                   |                  |            |                     |
| j) 2        | 27   | 神戸市灘区   | Mマンション防災委員会    | 2015/8/23             | 240       | 子ども16<br>大人18 | ◆        |           |       |          | ●             |        |         |        |                     | ●         | ●      |                      | ※                  |           | ※               |              | ※     |      | ※    | ■     |       |          |                   |                  |            |                     |
| j) 3        | 27   | 神戸市灘区   | Mマンション防災委員会    | 2015/10/18            | 210       | 200           | ◆        |           |       |          |               |        |         |        | ●                   |           | ●      | ●                    | ※                  |           | ※               |              |       |      | ※    | ■     | ■     | ■        |                   |                  |            |                     |
| m) 1        | 27   | 三重県鈴鹿市  | 療育センター         | 2015/12/17            | 20×3      | 家族83          |          |           |       | ◆        |               |        |         | ●      |                     |           |        |                      |                    |           |                 | ※            |       |      |      | ■     |       |          |                   |                  |            |                     |
| j) 4        | 27   | 神戸市灘区   | Mマンション防災委員会    | 2016/1/17             | 330       | 子ども27<br>大人19 | ◆        |           |       |          |               | ●      | ●       |        |                     |           | ●      | ●                    | ※                  |           | ※               |              | ※     |      | ※    | ■     | ■     |          |                   |                  |            |                     |
| m) 2        | 27   | 三重県鈴鹿市  | 療育センター         | 2016/1/25             | 30        | 職員20          |          |           |       | ◆        |               |        |         | ●      |                     |           |        |                      |                    |           |                 | ※            |       |      |      | ■     |       |          |                   |                  |            |                     |
| m) 3        | 27   | 三重県鈴鹿市  | 療育センター         | 2016/1/26             | 20×4      | 家族73          |          |           |       | ◆        |               |        |         | ●      |                     |           |        |                      |                    |           |                 |              | ※     |      |      | ■     |       | ■        |                   |                  |            |                     |
| n) 1        | 27   | 兵庫県伊丹市  | 小学校区福祉まちづくりネット | 2016/1/30             | 150       | 109           |          |           |       | ◆        |               | ●      |         |        |                     |           | ●      | ●                    |                    | ※         |                 | ※            | ※     | ※    |      | ※     | ■     | ■        | ■                 |                  |            |                     |
| f) 2        | 27   | 兵庫県伊丹市  | Sマンション自治会      | 2016/2/7              | 140       | 29            | ◆        |           |       |          |               | ●      |         |        |                     |           | ●      | ●                    |                    | ※         |                 | ※            | ※     |      |      | ■     | ■     |          |                   |                  |            |                     |
| n) 2        | 27   | 兵庫県伊丹市  | 小学校区福祉まちづくりネット | 2016/2/7              | 150       | 89            |          |           |       | ◆        |               | ●      |         |        |                     |           | ●      | ●                    |                    | ※         |                 | ※            | ※     | ※    |      | ※     | ■     | ■        | ■                 |                  |            |                     |
| o)          | 27   | 兵庫県伊丹市  | Nマンション自主防災会    | 2016/2/13             | 90        | 17            | ◆        |           |       |          |               | ●      |         |        |                     |           | ●      |                      |                    | ※         |                 | ※            |       |      |      | ■     | ■     | ■        |                   |                  |            |                     |
| p)          | 27   | 名古屋市千種区 | 地方・国会議員        | 2016/3/5              | 120       | 40            |          |           |       | ◆        |               |        |         |        |                     | ●         |        | ●                    | ●                  |           |                 |              |       | ※    |      | ■     |       |          |                   |                  |            |                     |
| g) 2        | 27   | 京都府精華町  | 社協             | 2016/3/12             | 30×6      | 子ども68<br>親39  |          |           |       | ◆        |               | ●      | ●       |        |                     | ●         |        | ●                    |                    |           |                 |              | ※     |      |      | ■     | ■     |          |                   |                  |            |                     |
| q)          | 27   | 三重県鈴鹿市  | 社協             | 2016/3/18             | 120       | 災害ボラ14        |          |           |       | ◆        |               |        |         |        |                     |           |        | ●                    |                    | ※         |                 | ※            | ※     |      |      | ※     | ■     |          |                   |                  |            |                     |
| r)          | 27   | 大阪市東淀川区 | 社協職員、民生委員他     | 2016/3/27             | 240       | 10            |          |           |       | ◆        |               |        |         |        |                     |           |        | ●                    |                    |           |                 | ※            | ※     |      |      | ※     |       |          |                   |                  |            |                     |
| 27年度合計実施箇所数 |      |         |                |                       |           |               | 6        | 0         | 0     | 4        | 8             | 5      | 5       | 3      | 3                   | 1         | 4      | 8                    | 9                  | 5         | 9               | 1            | 1     | 10   | 11   | 5     | 1     | 2        | 6                 | 17               | 7          | 5                   |



表2：平成27年度実施LODEワークショップ試行調査の状況（その2）

| 現場管理記号      | 現場所在地       | 対象<br>コミュニティ           | 実施日                   | WS等試行調査における実施メニュー(その1):★ |                 |                   |                |          |            |                   |                |                    |                   |             |                 |        |                         |            |               |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
|-------------|-------------|------------------------|-----------------------|--------------------------|-----------------|-------------------|----------------|----------|------------|-------------------|----------------|--------------------|-------------------|-------------|-----------------|--------|-------------------------|------------|---------------|-------------|-----------------|-----------------|--------------------|-------------------|---------------|--------------------|--------------------|
|             |             |                        |                       | 1)                       | 2)              | 3)                | 4)             | 5)       | 6)         | 7)                | 8)             | 9)                 | 10)               | 11)         | 12)             | 13)    | 14)                     | 15)        | 16)           | 17)         | 18)             | 19)             | 20)                | 21)               | 22)           | 23)                |                    |
|             |             |                        |                       | 地域図での図面WS                | 立面戸割図のテーブル上でのWS | 仮想立面戸割図のテーブル上でのWS | 立面戸割図の壁掛け式でのWS | 今LODE図作業 | 五年後LODE図作業 | 発災時避難行動図上シミュレーション | 住戸の表札名を記入してもらう | 導入質問:今日は何人の方と会話したか | 導入:班分け:●●の順に並んでみる | プレゼン:LODEとは | プレゼン:要援護者について説明 | 害者リユック | プレゼン:高齢者三種の神器、障害者防災頭巾、障 | プレゼン:防災紙芝居 | ポスイット(避難所マーク) | ポスイット(自助とは) | ポスイット(何を持って逃げる) | ポスイット(避難所で困ること) | ポスイット(避難所で助けを求める人) | ポスイット(避難所で生かせる得技) | ポスイット(どんなまちに) | ポスイット(平時から決めておくこと) | ポスイット(各障害者の避難支援方法) |
| i)          | 三重県<br>鈴鹿市  | SW小学校<br>5年生クラス        | 2015/6/5              | ★                        |                 |                   |                | ★        |            | ★                 |                |                    |                   |             |                 | ★      |                         | ★          | ★             |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| j)<br>1     | 神戸市<br>灘区   | Mマンション<br>防災委員会        | 2015/6/14<br>2015/7/5 |                          |                 |                   |                | ★        | ★          |                   |                |                    |                   | ★           | ★               | ★      |                         |            | ★             |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| k)          | 大阪市<br>西成区  | 社協                     | 2016/6/29             |                          |                 |                   |                |          |            |                   |                |                    |                   |             | ★               |        | ★                       |            |               |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| l)          | 兵庫県<br>伊丹市  | 子ども会                   | 2015/8/22             | ★                        |                 |                   |                |          |            | ★                 |                |                    |                   |             |                 |        |                         |            |               |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| j)<br>2     | 神戸市<br>灘区   | Mマンション<br>防災委員会        | 2015/8/23             |                          |                 |                   |                | ★        |            |                   |                |                    |                   |             |                 |        |                         |            |               |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| j)<br>3     | 神戸市<br>灘区   | Mマンション<br>防災委員会        | 2015/10/18            |                          |                 |                   |                |          |            |                   |                |                    |                   |             |                 |        |                         |            |               |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| m)<br>1     | 三重県<br>鈴鹿市  | 療育センター                 | 2015/12/17            |                          |                 |                   |                |          |            |                   |                |                    |                   |             |                 |        |                         |            |               | ★           |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| j)<br>4     | 神戸市<br>灘区   | Mマンション<br>防災委員会        | 2016/1/17             |                          |                 |                   |                |          |            | ★                 |                |                    |                   |             |                 |        |                         |            |               |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| m)<br>2     | 三重県<br>鈴鹿市  | 療育センター                 | 2016/1/25             |                          |                 |                   |                |          |            |                   |                |                    |                   |             |                 |        |                         |            |               |             | ★               | ★               | ★                  |                   |               |                    |                    |
| m)<br>3     | 三重県<br>鈴鹿市  | 療育センター                 | 2016/1/26             |                          |                 |                   |                |          |            |                   |                |                    |                   |             |                 |        |                         |            |               |             | ★               | ★               | ★                  |                   |               |                    |                    |
| n)<br>1     | 兵庫県<br>伊丹市  | 小学校区<br>福祉まちづく<br>りネット | 2016/1/30             | ★                        | ★               |                   |                |          | ★          |                   | ★              |                    | ★                 |             | ★               |        |                         | ★          |               |             |                 |                 |                    | ★                 | ★             |                    |                    |
| f)<br>2     | 兵庫県<br>伊丹市  | Sマンション<br>自治会          | 2016/2/7              |                          | ★               |                   |                |          | ★          |                   |                | ★                  |                   |             |                 |        |                         |            |               |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| n)<br>2     | 兵庫県<br>伊丹市  | 小学校区<br>福祉まちづく<br>りネット | 2016/2/7              | ★                        | ★               |                   |                |          | ★          |                   | ★              |                    | ★                 |             | ★               |        |                         | ★          |               |             |                 |                 |                    | ★                 | ★             |                    |                    |
| o)          | 兵庫県<br>伊丹市  | Nマンション<br>自主防災会        | 2016/2/13             | ★                        | ★               |                   |                |          | ★          |                   |                |                    |                   | ★           |                 |        |                         |            |               |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| p)          | 名古屋市<br>千種区 | 地方・国会議<br>員            | 2016/3/5              | ★                        |                 | ★                 |                |          |            |                   | ★              |                    |                   |             | ★               | ★      | ★                       |            | ★             | ★           |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| g)<br>2     | 京都府<br>精華町  | 社協                     | 2016/3/12             | ★                        |                 |                   |                |          |            |                   |                |                    |                   |             |                 |        | ★                       |            |               |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| q)          | 三重県<br>鈴鹿市  | 社協                     | 2016/3/18             | ★                        |                 | ★                 |                |          | ★          |                   | ★              |                    |                   |             |                 | ★      | ★                       |            |               |             |                 |                 |                    |                   |               | ★                  | ★                  |
| r)          | 大阪市東<br>淀川区 | 社協職員、民<br>生委員他         | 2016/3/27             |                          |                 | ★                 |                |          | ★          |                   | ★              |                    |                   |             | ★               | ★      | ★                       |            |               |             |                 |                 |                    |                   |               |                    |                    |
| 27年度合計実施箇所数 |             |                        |                       | 8                        | 4               | 3                 | 3              | 9        | 0          | 6                 | 1              | 2                  | 0                 | 7           | 4               | 6      | 1                       | 4          | 3             | 3           | 2               | 2               | 2                  | 2                 | 1             | 1                  |                    |

表3：平成27年度実施LODEワークショップ試行調査の状況（その3）

| 現場管理記号      | 現場所在地   | 対象コミュニティ       | 実施日                   | WS等試行調査における実施メニュー（その2）：★ |            |      |                              |                |              |         |              |        |              |        |                     |                     |       |     |          |     |                     |           |                  |                     |                  |
|-------------|---------|----------------|-----------------------|--------------------------|------------|------|------------------------------|----------------|--------------|---------|--------------|--------|--------------|--------|---------------------|---------------------|-------|-----|----------|-----|---------------------|-----------|------------------|---------------------|------------------|
|             |         |                |                       | 24)                      | 25)        | 26)  | 27)                          | 28)            | 29)          | 30)     | 31)          | 32)    | 33)          | 34)    | 35)                 | 36)                 | 37)   | 38) | 39)      | 40) | 41)                 | 42)       | 43)              | 44)                 | 45)              |
|             |         |                |                       | 災害伝言ダイヤル説明               | 子どもの自助力テスト | 手話体験 | 制作体験（ほのぼのの灯り、三種の神器箱、新聞スリッパ等） | 制作体験（ストロウハウス等） | 要援護者の名乗り出、紹介 | 要援護者を訪問 | まち歩き・団地歩き、観察 | 避難行動体験 | 避難住民数カウント・整理 | 機器操作体験 | 備蓄物資などの確認や体験・物資分配課題 | 防災クイズやスタンブラリーなどのゲーム | 会食・飲食 | 講演  | 研究会・企画会議 | 体験談 | 参加者全員が全体に向かって発言する機会 | 感想又はアンケート | ファシリテーショングラフィックス | 完成した作品等を利用した地域イベント化 | 事後報告会や完成マップの事後掲示 |
| i)          | 三重県鈴鹿市  | SW小学校5年生クラス    | 2015/6/5              | ★                        | ★          |      |                              |                |              |         |              |        |              |        |                     |                     |       |     |          |     |                     |           |                  |                     |                  |
| j) 1        | 神戸市灘区   | Mマンション防災委員会    | 2015/6/14<br>2015/7/5 |                          |            |      |                              |                | ★            |         |              |        |              |        |                     |                     |       |     |          |     | ★                   | ★         |                  |                     | ★                |
| k)          | 大阪市西成区  | 社協             | 2016/6/29             |                          |            |      |                              |                |              |         |              |        |              |        |                     |                     |       | ★   |          |     |                     | ★         |                  |                     |                  |
| l)          | 兵庫県伊丹市  | 子ども会           | 2015/8/22             |                          | ★          |      |                              | ★              | ★            |         | ★            |        |              | ★      |                     |                     | ★     |     |          |     |                     | △<br>役員   |                  |                     |                  |
| j) 2        | 神戸市灘区   | Mマンション防災委員会    | 2015/8/23             |                          |            |      | ★                            |                |              |         | ★            |        |              | ★      |                     |                     | ★     |     |          |     | ★                   |           |                  |                     |                  |
| j) 3        | 神戸市灘区   | Mマンション防災委員会    | 2015/10/18            |                          |            |      |                              |                |              | ★       | ★            | ★      | ★            | ★      | ★                   | ★                   | ★     |     |          |     |                     | ★         |                  |                     |                  |
| m) 1        | 三重県鈴鹿市  | 療育センター         | 2015/12/17            |                          |            |      |                              |                |              |         |              |        |              |        |                     |                     |       |     |          |     |                     | △<br>職員   |                  |                     |                  |
| j) 4        | 神戸市灘区   | Mマンション防災委員会    | 2016/1/17             |                          |            |      | ★                            |                |              |         |              |        |              |        |                     |                     | ★     |     |          |     |                     | △<br>役員   |                  | ★                   |                  |
| m) 2        | 三重県鈴鹿市  | 療育センター         | 2016/1/25             |                          |            |      |                              |                |              |         |              |        |              |        |                     |                     |       |     |          |     |                     | △<br>職員   |                  |                     |                  |
| m) 3        | 三重県鈴鹿市  | 療育センター         | 2016/1/26             |                          |            |      |                              |                |              |         |              |        |              |        |                     |                     |       |     |          |     |                     | △<br>職員   |                  |                     |                  |
| n) 1        | 兵庫県伊丹市  | 小学校区福祉まちづくりネット | 2016/1/30             | ★                        |            |      |                              |                |              |         |              |        |              | ★      | ★                   |                     |       |     |          |     |                     | ★         |                  |                     |                  |
| f) 2        | 兵庫県伊丹市  | Sマンション自治会      | 2016/2/7              |                          |            |      |                              |                |              |         |              |        |              | ★      |                     |                     | ★     |     |          |     | ★                   | △<br>役員   |                  |                     |                  |
| n) 2        | 兵庫県伊丹市  | 小学校区福祉まちづくりネット | 2016/2/7              | ★                        |            | ★    |                              |                | ★            |         |              |        |              | ★      | ★                   |                     |       |     |          | ★   |                     | ★         |                  |                     |                  |
| o)          | 兵庫県伊丹市  | Nマンション自主防災会    | 2016/2/13             |                          |            |      |                              |                |              |         |              |        |              |        |                     |                     |       |     |          |     |                     | △<br>役員   |                  |                     | ★                |
| p)          | 名古屋市千種区 | 地方・国会議員        | 2016/3/5              | ★                        |            |      |                              |                |              |         |              |        |              |        |                     |                     |       |     |          | ★   |                     | △<br>役員   |                  |                     |                  |
| g) 2        | 京都府精華町  | 社協             | 2016/3/12             |                          | ★          |      | ★                            |                |              |         |              |        |              |        |                     | ★                   |       |     |          |     |                     | △<br>職員   |                  |                     |                  |
| q)          | 三重県鈴鹿市  | 社協             | 2016/3/18             |                          |            |      |                              |                |              |         |              |        |              |        |                     |                     |       |     |          |     |                     |           |                  |                     |                  |
| r)          | 大阪市東淀川区 | 社協職員、民生委員他     | 2016/3/27             |                          |            |      |                              |                |              |         |              |        |              |        |                     |                     | ★     |     | ★        |     | ★                   |           |                  |                     |                  |
| 27年度合計実施箇所数 |         |                |                       | 4                        | 3          | 1    | 3                            | 1              | 3            | 1       | 3            | 1      | 1            | 6      | 3                   | 2                   | 6     | 1   | 1        | 2   | 4                   | 14        | 0                | 1                   | 2                |

①神戸市灘区大規模マンション（基本LODE・マンションLODEワークショップ）

a) 対象コミュニティ

- ・ 大規模分譲マンション（計5棟603戸）。

b) 実施前の状況

- ・ 管理組合理事会の下に「防災減災委員会」を設置。
- ・ これまでLODEをはじめ、防災ワークショップに取り組んだ経験は無い。

c) 実施の経緯

- ・ プロジェクトアドバイザー及び研究協力者からの紹介。

d) 対象コミュニティのキーパーソン

- ・ 防災減災委員会委員長（管理組合理事長経験者）以下、委員会の中に数名の熱心なメンバー（大半は防災士である）。
- ・ メンバー中1名は、このマンションを担当する民生委員。
- ・ 管理組合理事会の他メンバーは、防災活動に対してさほど協力的ではない（防災減災委員会メンバー談による）。

e) LODE実施の狙い

- ・ 要援護者の把握をしたい。
- ・ 防災やコミュニティ活動に関し無関心層が多い住民の意識を喚起したい。

f) LODEワークショップ実施前の計画

表4：神戸市灘区大規模マンションにおけるLODE実施事前計画

| 想定される開催・取組みの内容 |                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回目WS実施       | <p>【LODEのLOD（脆弱性）を評価してみる】</p> <p>住棟の模式図と凡例シールをつかって「いざとなれば支援が必要な人」について情報共有を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Little : 乳幼児や子ども</li> <li>・ Old : 高齢者</li> <li>・ Disabled: その他特別に配慮が必要な人たち</li> <li>・ その他（ペットなど）</li> </ul> |
| 第1回目WS成果報告     | <p>第1回目WSの情報を整理してご報告します。</p> <p>そのもとに第2回目WSの実施内容に関しての検討を行います。</p>                                                                                                                                                                        |
| 第2回目WS実施       | <p>【LODEのEを体験してみよう】</p> <p>「〇〇までみんなで避難してみよう」：具体的な課題をとおして対策を考えてみます。とりわけ要援護者の避難行動で問題となる点なども確認していきます。この他、周辺地域との協力や対応が必要な課題も見えてくるかもしれません。</p>                                                                                                |
| 第2回目WS成果報告     | <p>第2回目WSの結果を整理してご報告します。</p> <p>そのもとに第3回目WSの実施内容に関しての検討を行います。</p>                                                                                                                                                                        |
| 第3回目WS実施       | <p>【5年後LODEにトライしてみよう】</p> <p>第1回目WSで作成したLODEマップをもとに、“5年後を想定したLODEマップ”の作成にトライしてみます。</p> <p>この狙いは、“潜在している脆弱性”、と“今後に向けて内在する可能性”を発見、認識することにあります。</p>                                                                                         |
| 第3回目WS成果報告     | <p>第3回目WSの結果を整理してご報告します。</p> <p>そのもとに成果報告会開催内容に関しての検討を行います。</p>                                                                                                                                                                          |
| 成果報告会（公開）      | <p>マンションの全住戸に案内をして、今年度一連の取り組みの成果報告会を開催します。</p>                                                                                                                                                                                           |

g) 実際の実施内容と実施体制

【第1回目ワークショップ：6月14日実施】

- 参加者数と参加者層：33名（うち1名が中学生、他は中高年齢層が大半）
- 実際手順と凡列表

表5：神戸市灘区大規模マンションでの第1回目ワークショップの実施手順（その1）

| 作業順番    | 作業1                       | 作業2                                    | 作業3                                                                                                    | 作業4                                                                             | 作業5                                                                                                                                                                                                 | 作業6                                                           | 作業7                      | 作業8                                                                                                                             |
|---------|---------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 所要時間    | 5                         | 8                                      | 3                                                                                                      | 5                                                                               | 17                                                                                                                                                                                                  |                                                               | 7                        |                                                                                                                                 |
| 時刻      | 13:34～13:39               | 13:39～13:47                            | 13:47～13:50                                                                                            | 13:50～13:55                                                                     | 13:55～14:12                                                                                                                                                                                         |                                                               | 14:12～14:19              |                                                                                                                                 |
| カテ      | 導入                        |                                        |                                                                                                        | LODEの成り立ち                                                                       | 自助について                                                                                                                                                                                              |                                                               | 共助について                   |                                                                                                                                 |
| タイトル    | 27年度LODEの取り組みにあたって        | 今回のRISTEXの研究開発プロジェクトについて               | プロジェクトメンバー紹介                                                                                           | プレゼン：阪神大震災からDIGへ、そして今LODEへ                                                      | 作業：あなたにとって「自助」とは？                                                                                                                                                                                   | プレゼン：「高齢者三種の神器」他                                              | プレゼン：なぜ「共助」は必要か？         | プレゼン：主な「支援を必要とする方々」                                                                                                             |
| 達成すべき目標 | 27年度取り組みに関する参加住民のやる気を喚起する | 当研究開発事業に対する参加住民の理解・認識を促す               | プロジェクトメンバーを知り、作業へのウォーミングアップを行う                                                                         | 防災のための図上WSの意義・意味を理解していただく                                                       | 参加者にまず「自助とは」を考えてもらう。その結果を全体で整理し、全員で共有する。                                                                                                                                                            | 自助の考え方の一例を学んでいただく。要援護者の生命の危険やQOL低下につながるがかなない事態の一例を学ぶ          | 共助の必要に関する参加住民の理解促進       | 要支援者に関する参加住民の理解促進                                                                                                               |
| 生成物     | 参加住民のやる気                  | RISTEX研究開発事業及びLODEに対する参加住民の理解・認識（背景理解） | 作業しやすい雰囲気                                                                                              | 参加住民のやる気と理解                                                                     | 参加者たちの「自助」意識を記したポストイット                                                                                                                                                                              | 要援護者支援の考え方にに関する参加住民の理解・認識                                     | 共助の必要に関する参加住民の理解         | 要支援者に関する参加住民の理解                                                                                                                 |
| 作業単位    | 全体                        | 全体                                     | 全体                                                                                                     | 全体                                                                              | 全体                                                                                                                                                                                                  | 全体                                                            | 全体                       | 全体                                                                                                                              |
| 進め方     | プレゼン                      | プレゼン                                   | プレゼン                                                                                                   | プレゼン                                                                            | 作業：「自助と聞いてあなたは何を想起するか」を                                                                                                                                                                             | プレゼン                                                          | プレゼン                     | プレゼン                                                                                                                            |
|         |                           | RISTEX古屋様にお任せする                        | LODEプロジェクトメンバーを紹介する<br>②プロジェクト代表 倉原先生<br>③鈴鹿代表者南部<br>④協力者松山先生<br>⑤鈴鹿チーム森本<br>⑥鈴鹿チーム大西<br>⑦外部協力者：神戸市菊地様 | 南部美智代から次のような内容の説明<br>①阪神大震災後DIGを発売した経緯<br>②さらにLODEを発売した経緯<br>③LODEはLOVEをもって行うこと | 1. 南部美智代から次のような作業指示<br>①「自助と聞いてあなたは何を想起するか」を3分以内にポストイットに書く（ポストイットは棟別に色分け配布）<br>②ポストイットを回収員に渡す<br>2. 回収されたポストイットを森本、橘によって模造紙上に分類、整理。全体に傾向を報告。<br>3. 模造紙に整理されるポストイットの意見は、ポストイットの色（5色）によって棟別にも整理・把握できる | 南部美智代から、「高齢者三種の神器入れ」や「乳幼児アタッチメントを活用した障害児向け防災頭巾」などのグッズを披露・説明する | 橘から、①パワポグラフで共助の必要性を説明する。 | 橘から、①パワポで主要要援護者のタイプについて説明する。<br>L：赤ちゃん、未就学児、小学生の中でとりわけ発達障害児<br>O：在宅の要介護・要支援及び予備軍の方々<br>D：在宅の身体（内部含む）・知的・精神の方々<br>その他外国人、虐待懸念家庭他 |
| 役割      | ●プレゼンター：マンション理事長          | ●プレゼンター：RISTEX古屋様                      | ●プレゼンター：災害VN鈴鹿 橘                                                                                       | ●プレゼンター：災害VN鈴鹿 南部                                                               | ●コーディネーター：災害VN鈴鹿 南部<br>●補助者：災害VN鈴鹿 橘<br>●補助者：災害VN鈴鹿 森本                                                                                                                                              | ●プレゼンター：災害VN鈴鹿 南部                                             | ●プレゼンター：災害VN鈴鹿 橘         | ●プレゼンター：災害VN鈴鹿 橘                                                                                                                |
| 観察記録    | 倉原<br>大西                  | 倉原<br>大西                               | 倉原<br>大西                                                                                               | 倉原<br>大西                                                                        | 倉原<br>大西                                                                                                                                                                                            | 倉原<br>大西                                                      | 倉原<br>大西                 | 倉原<br>大西                                                                                                                        |
| ツール     |                           |                                        | ●スタッフ名札<br>●参加者名札                                                                                      | ●LODEロゴ拡大印刷模造紙 またはPPT                                                           | ●色別ポストイット 大、ボールペン、模造紙                                                                                                                                                                               | 高齢者三種の神器入れ実物<br>乳幼児アタッチメントを活用した障害児向け防災頭巾実物                    | ★PPT:「阪神大震災時の調査結果」       | ★PPT:「L、O、Dの説明」                                                                                                                 |

表6：神戸市灘区大規模マンションでの第1回目ワークショップの実施手順（その2）

| 作業順番    | 作業9                                                                                                                 | 作業10                                                                                                                             | 作業11                                                                                                                    | 計画外作業<br>12-1                                                                                                                                                                            | 計画外作業<br>12-2                                                                                                                                                                            | 作業13                                        | 作業14                                    |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 所要時間    | 4                                                                                                                   | 22                                                                                                                               | 22                                                                                                                      | 6                                                                                                                                                                                        | 27                                                                                                                                                                                       | 7                                           | 3                                       |
| 時刻      | 14:19～14:23                                                                                                         | 14:23～14:45                                                                                                                      | 14:45～15:07                                                                                                             | 15:07～15:13                                                                                                                                                                              | 15:13～15:40                                                                                                                                                                              | 15:40～15:47                                 | 15:47～15:50                             |
| カテ      | LODE WSの手順説明                                                                                                        | LODEワークショップ「わがマンションの脆弱性を知る」                                                                                                      |                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                          | 結び                                                                                                                                                                                       |                                             |                                         |
| タイトル    | プレゼン：LODE図上WS作業手順                                                                                                   | 作業：棟別に要援護者の所在を凡例シールによって示す作業                                                                                                      | 作業：「お助けタイム」：参加者が居住棟以外の図面に対して知っている情報を提供                                                                                  | 作業：本日のワークショップに関する感想をお聞かせください？                                                                                                                                                            | 発表：本日のワークショップに関する感想                                                                                                                                                                      | まとめと講評                                      | 締めのことば                                  |
| 達成すべき目標 | LODEワークショップの手順に関して理解を促す                                                                                             | 参加住民に「自分の棟に居る要援護者」を認識してもらう                                                                                                       | 他棟からの参加住民の力をかりて「自分の棟に居る要援護者」情報を充実させる                                                                                    | 参加者各自に「本日の感想」を考えてもらう。その結果を全体で整理し、全員で共有する。                                                                                                                                                | 参加者各自に記入してもらった「本日の感想」を、各自が全員に対し発表し、全員で共有する。                                                                                                                                              | 参加者に、外側の目による講評を聞いていただき、次の活動のための意識づくりをおこなう   | 今回参画への感謝と今後の継続的参加を依頼する                  |
| 生成物     | LODEワークショップの基本的手順に関する参加住民の理解                                                                                        | 各棟参加住民が認識する要援護者情報(立面戸割図)                                                                                                         | 今回参加者総力による要援護者情報(立面戸割図)                                                                                                 | 参加者たちの「本日の感想」を記したポストイットとその整理シート                                                                                                                                                          | 参加住民の今回参加意識の共有、及び今後の参加への意欲。                                                                                                                                                              | 参加住民の次回への意識                                 | 今後の参加への意欲                               |
| 作業単位    | 全体                                                                                                                  | 棟別グループ                                                                                                                           | 全体（棟別グループに対し、他棟住民が意見を述べる）                                                                                               | 全体                                                                                                                                                                                       | 全体                                                                                                                                                                                       | 全体                                          | 全体                                      |
| 進め方     | プレゼン                                                                                                                | 作業：班員同士話し合いながら、凡例に従って要援護者シールを貼っていく                                                                                               | 作業：他棟住民がポストイットによってお助け情報を提供する                                                                                            | 作業：本日のワークショップに参加した感想や意見を各自ポストイットに記入する。                                                                                                                                                   | 作業：参加者一人一人が全員に対して発表。                                                                                                                                                                     | プレゼン                                        | プレゼン                                    |
|         | 橋から、<br>①要援護者発見作業について説明する。<br>・棟別に作業する<br>・立面模式図<br>・その上にフィルムシート<br>・四隅を明記<br>・凡例別シールを貼る<br>・途中で棟別発表と棟同士「お助けタイム」をとる | ①要援護者の居ない住戸：斜め線<br>②自宅：銀の★<br>③乳幼児：オレンジ丸<br>④未就学児：黄色丸<br>⑤小学生：水色丸<br>⑥中学生：青色丸<br>⑦前期高齢者：紫色丸<br>⑧後期高齢者：赤色丸<br>⑨特に配慮や支援が必要な人：金色ハート | ①各棟代表から作業状況を簡単に報告する（各1分）。<br>②それに対して他棟からの参加者が追加情報（お助け情報）を色別ポストイットで提供（各3分）：「〇番館●●●号室にこんな方が住んでいる」<br>この作業を5棟全てに行う（計4分×5棟） | 1. 南部美智代から次のような作業指示<br>①「本日の感想」を3分以内にポストイットに書く（ポストイットは棟別に色分け配布）<br>②ポストイットを回収員に渡す<br>2. 回収されたポストイットを森本、橋によって模造紙上に分類、整理。全体に傾向を報告。<br>3. 模造紙に整理されるポストイットの意見は、ポストイットの色（5色）によって棟別にも整理・把握できる。 | 1. 南部美智代から次のような作業指示<br>①「本日の感想」を3分以内にポストイットに書く（ポストイットは棟別に色分け配布）<br>②ポストイットを回収員に渡す<br>2. 回収されたポストイットを森本、橋によって模造紙上に分類、整理。全体に傾向を報告。<br>3. 模造紙に整理されるポストイットの意見は、ポストイットの色（5色）によって棟別にも整理・把握できる。 | プロジェクトリーダー、プロジェクト協力者、領域アドバイザーの3先生から簡単な講評を発表 | 南部美智代からお礼の挨拶。<br>参加者に「高齢者三種の神器入れ」のプレゼン。 |
| 役割      | ●プレゼンター：災害VN鈴鹿 橋                                                                                                    | ●全体コーディネーター：災害VN鈴鹿 南部<br>●補助者：災害VN鈴鹿 橋<br>●テーブルファシリテータ<br>各棟1名以上（森本、さらに松山先生サポート）                                                 | ●全体コーディネーター：災害VN鈴鹿 南部<br>●補助者：災害VN鈴鹿 橋<br>●テーブルファシリテータ<br>各棟1名以上（不在の場合は、森本、さらに松山先生にもお願い）                                | ●コーディネーター：災害VN鈴鹿 南部<br>●補助者：災害VN鈴鹿 橋<br>●補助者：災害VN鈴鹿 森本                                                                                                                                   | ●コーディネーター：災害VN鈴鹿 南部<br>●補助者：災害VN鈴鹿 橋<br>●補助者：災害VN鈴鹿 森本                                                                                                                                   | ●講評者：倉原先生<br>●講評者：松山先生<br>●講評者：田村先生         | ●プレゼンター：災害VN鈴鹿 南部                       |
| 観察      | 倉原                                                                                                                  | 倉原                                                                                                                               | 倉原                                                                                                                      | 倉原                                                                                                                                                                                       | 倉原                                                                                                                                                                                       | 倉原                                          | 倉原                                      |
| 記録      | 大西                                                                                                                  | 大西                                                                                                                               | 大西                                                                                                                      | 大西                                                                                                                                                                                       | 大西                                                                                                                                                                                       | 大西                                          | 大西                                      |
| ツール     | ★PPT:「LODEワークショップ作業と凡例の説明」<br>●凡例表シート(各棟班1枚複数枚)                                                                     | ●棟別立面戸割図(5棟分)と上掛けフィルムシート<br>●凡例シール各種                                                                                             | ●お助けポストイット(小)：お助け意見を出す参加者には棟別に色を決めたポストイットを渡す<br>●ボールペン                                                                  | ●色別ポストイット大、ボールペン、模造紙                                                                                                                                                                     | ●色別ポストイット大、ボールペン、模造紙                                                                                                                                                                     |                                             | ●高齢者三種の神器入れ(人数分)                        |

- ①みなさんの自宅に、銀色の★シールを貼ってください。
- ②特別に支援が必要な人が居ないお家には、斜線をひいてください。
- ③各住戸に下の凡例に従ってシールを貼っていきます。  
この時、下記枠内にあてはまる人1名につき1枚ずつ貼ってください。(1戸に下記該当者が3名いる場合、枠の中に3枚のシールが貼られている事になります)

|       |                  |
|-------|------------------|
| ●オレンジ | 赤ちゃん（0歳児・乳幼児）    |
| ●黄    | 色：1歳以上の幼児（未就学児）  |
| ●水    | 色：小学生            |
| ●青    | 色：中・高校生          |
| ●紫    | 色：前期高齢者（65歳～74歳） |
| ●赤    | 色：後期高齢者（75歳以上）   |
| ●金    | 色：特別に支援や配慮が必要な人  |

- シールを貼った人で、特別な支援が必要な人は、
- と♥の2種類のシールを少し重ねて貼ってください。

●シールの年齢に当てはまらない人で、特別な支援が必要な人は、♥マークだけで貼ってください。



この他に、共有した方が良い事項があれば、ポストイットに記入し、住戸の枠内に貼ってください。

図4：神戸市灘区大規模マンション第1回目ワークショップで使用した凡例表

#### ● 観察調査によるポイント

- ・ 民生委員とその下で要援護者見守り活動に従事する友愛ボランティアメンバー数名が参加していたことによって、ワークショップの参加者数が少ないにもかかわらず、要援護者情報数は26人に上った（神戸市が把握する要援護者数は82名存在）。
- ・ しかし、参加者の大半は中高年齢層であり、子どもの情報に関してはあまり表示することができなかった。そのよう中で、たった1名の中学生参加者と、もう1名小学生を持つ親の2名によって、子ども情報シールの半分以上が貼られた。
- ・ この回の図面ワークショップでは、マンション各棟の立面戸割図を壁掛け式で掲示し作業したが、作業中の住民同士の会話は「テーブル式ワーク」の現場と比較して少なかったようである。シールを貼る作業が中心になり、同じ住棟同士の住民が会話によってコミュニケーションを図るという場面が少なかったように見うけられた。
- ・ 6月管理組合総会において新理事長が選任されたが、前理事長は参加しなかった（防災活動には協力的ではないという防災減災委員会メンバーたちの声を裏付ける形となった）。

●現場写真



写真1・2：神戸市灘区大規模マンションワークショップでのポストイット作業の様子



写真3・4：神戸市灘区大規模マンションワークショップでの図面作業の様子



写真5・6：神戸市灘区大規模マンションワークショップでの「本日の感想」の記入  
及び各人による発表作業の様子



写真7・8：神戸市灘区大規模マンションワークショップで作成された  
要援護者等情報を含む住棟別のLODEマップの一部

【第1回目ワークショップの報告会：7月5日実施】

- 参加者数と参加者層：33名（ほとんどが中高年齢層、新規参加者は33名中9名）
- 実際手順（約60分）
  - 1) コミュニティ側主催者あいさつ
  - 2) プロジェクト説明と RISTEX 側メンバー紹介
  - 3) LODE についての説明
  - 4) 第1回（6月14日）WS の報告
    - ・ 番館毎の作業成果図
    - ・ 要援護者などシール情報をデータ化した結果を表・グラフで説明
  - 5) ポストイット作業結果（「自助とは」）のまとめのデータ報告
  - 6) ポストイット作業結果（「感想について」）のまとめのデータ報告
  - 7) 質疑応答
  - 8) 終わりの挨拶
- 報告内容

【全体】LOD別の認識状況（人数）□

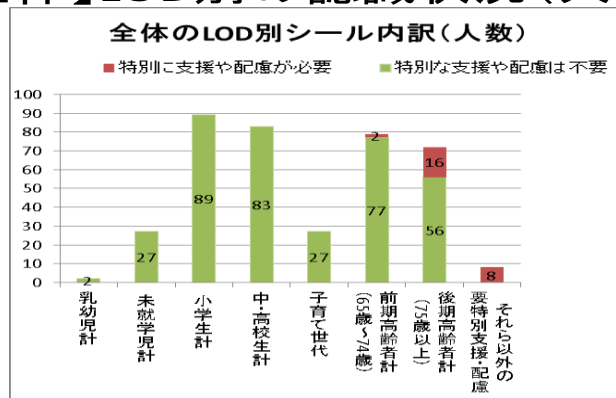


図5：神戸市灘区大規模マンション第1回目ワークショップ結果グラフ（その1）

【全体】LOD別の認識状況（人数）□

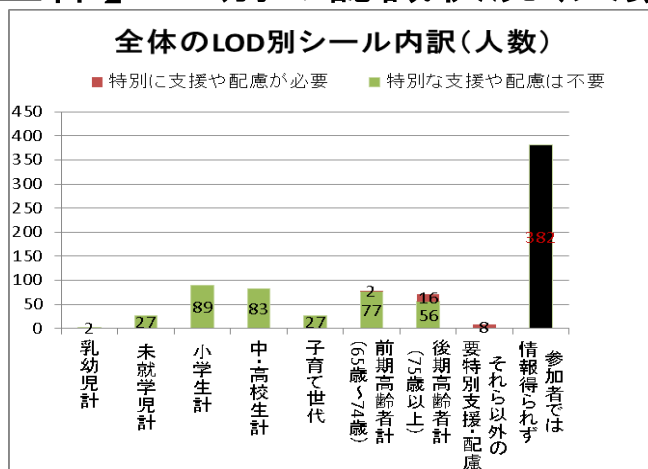


図6：神戸市灘区大規模マンション第1回目ワークショップ結果グラフ（その2）



【第1回目特別ワークショップ「子どもLODE：8月23日実施」】

- 参加者数と参加者層：34名（新規参加26名中子ども16名、大人リピーター8名）
- 実際手順（10時～15時の4時間）
  - 1）10:00～：マンション主催者側からの挨拶と倉原PJからのあいさつとスタッフ紹介（南部）
  - 2）09:40～：子どもたちの相互自己紹介と握手会（自分の名前と住所、好きな科目を言う）
  - 3）09:50～：調査携帯品の説明とトランシーバーの扱い方の説明と班分け
  - 4）10:30～：班別に各住棟（自分の住棟）へ調査に出かける（トランシーバーと簡易メジャー、筆記具、カメラ、記録パネルを携帯して）。
  - 5）11:30～：大人の協力者にありがとうの手紙を書く
  - 6）12:00～：みんなで昼食（カレーライス）
  - 7）13:00～：調査結果を各棟別図面上に整理する作業
  - 8）13:30～：班別に作業結果報告
  - 9）14:00～：棟別図面の上に子ども（中高生、小学生、幼児）のシールを貼る作業その後講師等から講評・感想。
  - 10）14:30～15:00：防災紙芝居

●現場写真



写真9～12：神戸市灘区大規模マンションでの「子どもLODEワークショップ」での作業の様子

## 【第2回目ワークショップ（防災訓練）：10月18日実施】

### ● 防災訓練実施の狙い

- ・ 参加者が少ないままデータ収集を目的としたワークショップを継続するには限界があり、そのため沈滞気味の住民参加度を上げたい（参加者200名を目標）。
- ・ 住民同士のコミュニケーション増進を図りたい（狙いは垂直避難を促しやすい上下関係の構築、そのための出会いの場の提供）。
- ・ 住民にマンションの防災環境・能力を知ってもらう、関心をもってもらいたい。

### ● 参加者数

表7：神戸市灘区大規模マンションでの防災訓練参加者数

|              | 1 番館 | 2 番館 | 3 番館 | 4 番館 | 5 番館 | 他  | 計    |
|--------------|------|------|------|------|------|----|------|
| 男<br>(大人～子供) | 21名  | 15名  | 25名  | 14名  | 14名  |    | 89名  |
| 女<br>(大人～子供) | 16名  | 24名  | 33名  | 9名   | 8名   |    | 90名  |
| 別参加小学生       |      |      | 3名   |      | 2名   | 2名 | 7名   |
| 計            | 37名  | 39名  | 61名  | 23名  | 24名  | 2名 | 186名 |

この他捕捉できなかった参加者が20～30名いたと想定されるため、目標に掲げた参加者数は達成できたと考えられる。

### ● 実施内容・手順

08:30 準備開始

09:00 全スタッフ本部前ピロティ（三番館前ピロティ）に集合、  
委員長及び役員（本部スタッフ：消防署勤務の住民）より役割分担の確認

09:30 火災発災警報を全館で鳴らす

10:00 避難者全員で本部前ピロティに集合、出席シールを貼る  
各番館リーダーは番館の居住者同士が互いに自己紹介と握手するよう促す  
各番館リーダーは参加者人数を本部に報告する  
理事長から挨拶、役員より本日の説明  
リーダーの引率により、番館ごとに5箇所のポイントを巡ってもらう  
各ポイントでシールを貼ってもらい、スタンプラリー式にする。

#### ①ポンプ室見学とはしご車想定ロープ 15分

ポンプ室見学と、浸水時・停電時にポンプが稼働しなくなったときの説明を聞く。  
はしご車の侵入経路、活動場所、大きさをロープで表現して実感してもらう。

#### ②水消火器による放水訓練 20分

スタッフの説明に従って放水訓練を実施する。事前に練習の必要。

#### ③担架訓練 20分

担架で人形を運ぶ（60kgの重さの体験）。救助用担架の体験。

#### ④防災機器説明と保管場所の確認 15分

#### ⑤居住している番館の案内と説明 30分

停電時エレベーターやエントランス扉はどうなるか

消火器の場所の確認

安否確認シートの貼り出し状況の確認調査（全戸調査→本部に報告）

【番館毎の巡回順】

1 番館：①→②→③→④→⑤

2 番館：②→③→④→⑤→①

3 番館：③→④→⑤→①→②

4 番館：④→⑤→①→②→③

5 番館：⑤→①→②→③→④

10:30 民生委員と友愛ボランティアによる要援護者宅訪問

12:00 ポイント巡り終了後各参加者に記念品贈呈

11:30 炊き出しコーナー（パスタコーナー、ぜんざいコーナー）で各自食事

11:30 ぜんざいコーナー前で簡易アンケート調査実施

13:00 片付け開始（14時までに完全終了）

後日 全館全戸向けにアンケート調査実施

● 主な結果

- ・ 要援護者宅の訪問では、神戸市の要援護者名簿に掲載されている82名を戸別訪問したが、応答のない家も多く、全員の実態確認はできなかった。
- ・ 5番館の19戸の中に「40代で健康そうな方」、「70歳で健康そうな方」が名簿に入っていたが、これらが名簿に掲載される事情を抱えた方なのか否かを再度確認する必要がある。名簿自体が全て信頼に足るものとは言い切れない。

表8：神戸市灘区大規模マンション防災訓練における要援護者確認状況

|      | 神戸市の名簿掲載者 | 「介助求む」のステッカーを貼り出した方 | 訪問できたが「介助求む」或いは「無事です」のステッカーを貼り出してなかった方 | 訪問できたが要援護者か否かの確認が必要と思われた方 | 留守などで確認ができなかった方 |
|------|-----------|---------------------|----------------------------------------|---------------------------|-----------------|
| 1 番館 | 17名       | 3名                  | 10名                                    |                           | 4名              |
| 2 番館 | 18名       | 6名                  | 3名                                     |                           | 9名              |
| 3 番館 | 23名       | 1名                  | 2名                                     |                           | 20名             |
| 4 番館 | 5名        | 1名                  | 0名                                     |                           | 4名              |
| 5 番館 | 19名       | 3名                  | 10名                                    | 2名                        | 4名              |
| 計    | 82名       | 14名                 | 25名                                    | 2名                        | 41名             |

● 住民の反応（アンケート結果より）

参加者の約3割強に当たる65名（50名近くに及ぶ役員やボランティアは含まれていないため、回答協力率は実質4割相当と考えられる）の住民からアンケート調査により評価や感想の声を集めた。その主な結果を示すと次のとおりである。

【今回の防災訓練イベントの総合評価】

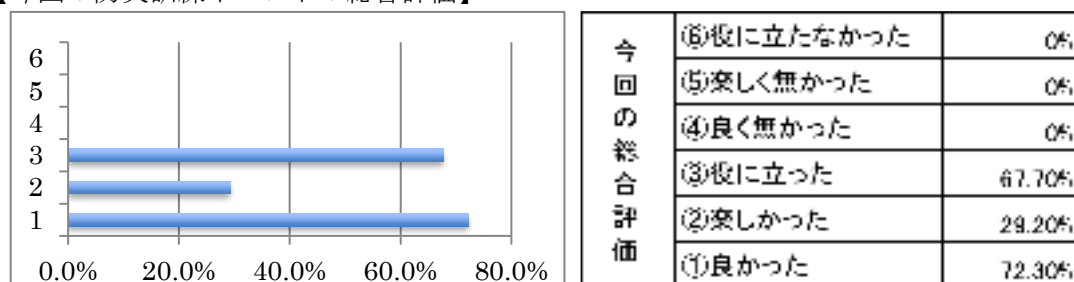


図7：神戸市灘区大規模マンションでの防災訓練におけるアンケート調査結果（その1）

- ・ 否定的な評価は皆無であった。

【今回のメニューの中で良かった点】

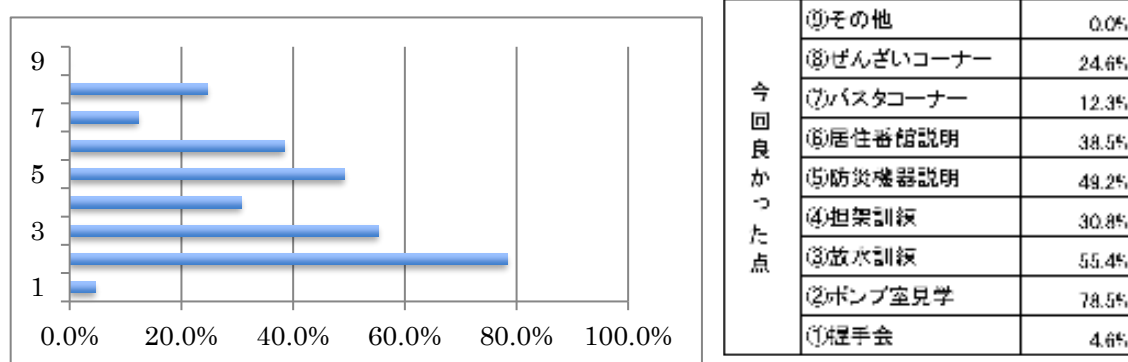


図8：神戸市灘区大規模マンションでの防災訓練におけるアンケート調査結果（その2）

- ・ 巡回ポイントの各メニューは評価が高かった。
- ・ パスタコーナーの評価の低さは“長蛇の列”が原因のひとつかもしれない。

【今回のメニューの中で改善・工夫すべき点】

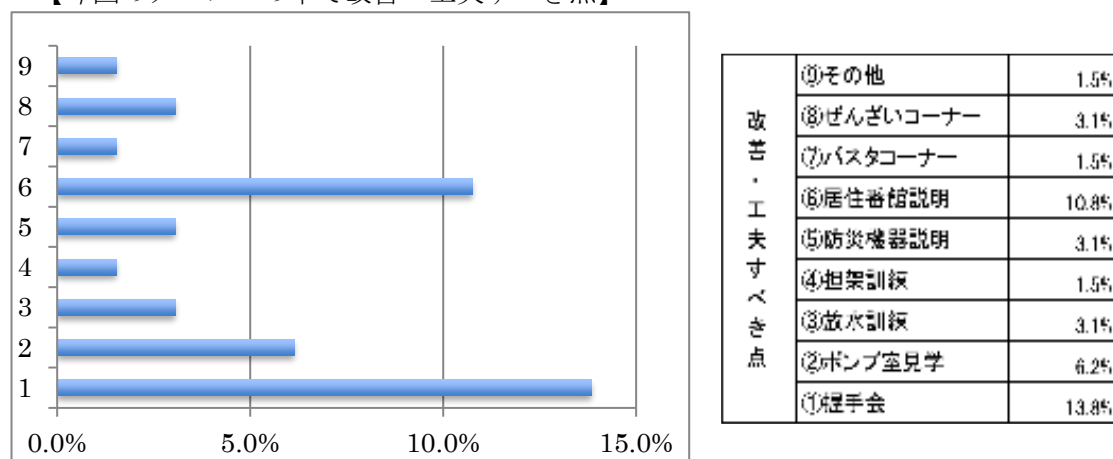


図9：神戸市灘区大規模マンションでの防災訓練におけるアンケート調査結果（その3）

- ・ 握手会が曖昧になってしまったことがここで数字となって表れている。
- ・ 今後は居住番館説明にさらなる工夫が求められる。

【自由意見の中で好意的な意見について】

- ・ 「よかった」や「知らないことがわかった」などの総体的な評価もあるが、「毎年継続希望」というさらに前向きな評価も少なくない。
- ・ また「ポンプ室見学等」や「同じ番館の人との交流」、「安否確認シートのわかりやすさ」等、具体的な評価ポイントをあげる意見も見られた。

【自由意見の中で課題を指摘した意見について】

- ・ 安全確認シートが全戸に配布されていないのではないかと指摘が上がった。
- ・ 「警報音が聞こえにくかった（聞こえなかった）」という指摘もあった。
- ・ 握手会を楽しみにしていた方は少なくなかったようだ。次回こそはその期待に応えるようにすべきである。コミュニケーションを大切と考える住民は決して少なくないと思われる。
- ・ 参加者の少なさや住民の無関心さを嘆く意見も数名から上げられている。

●現場写真



写真13・14：防災訓練での消火器訓練、担架訓練



写真15・16：防災機器説明とスタンプラリーカード



写真17・18：支援を求める要援護者宅のステッカーと

見守りボランティアによる要援護者宅の訪問

## 【第2回目特別ワークショップ（震災祈念イベントの実施）：1月17日実施】

- 震災記念イベント実施の経緯（コミュニティ側の考え方）
  - ・ 当初RISTEXから提示されたスケジュールでは、1月17日に地域住民に呼びかけて「5年後LODEワークショップ」を開催する予定となっている。
  - ・ しかし1月17日は小中学生は学校行事で駆り出され、午後～夕方であれば集まらない。また、大人も全紙各地で震災記念イベントが行われるため、地元（摩耶）での取り組みにどれだけ参加してくれるか非常に心もとない。
  - ・ 一方、1月17日震災記念イベントの数々は、公的機関がリードする形でこれまで継続されてきたが、それも今年で一区切り、次年度からは縮小されていく公算が大と言われている。対して我々マンション防災減災委員会では、世間の縮小気運にかかわらず、今後の震災記念を担っていきたいという気概を持っている。
  - ・ そこで、人は集まりにくい日程ではあるが、住民たちの心に残る、子供達も参加してくれる震災イベントの企画・実施したい。
- 震災記念イベント実施の狙い
  - ・ 震災記念日の行事として今後も継続できる行事を創りたい
  - ・ 子どもの心に残る震災イベントを実施したい
  - ・ 子どもと大人が共同作業することで、マンション内のコミュニケーション増進を図りたい
  - ・ LODEの締めくくりのワークショップの前に、防災関連事業やLODE事業への参加者の裾野をさらに広げたい
- 参加者数
  - ・ 捕捉できた人数（マンション住民44名、外部2名）
  - ・ 捕捉できなかった人数（10～20名程度）
  - ・

表 9：1月17日震災記念イベントへの参加者数

| 参加者の別   |       | 1 番館 | 2 番館 | 3 番館 | 4 番館 | 5 番館 | 外部  | 計    |
|---------|-------|------|------|------|------|------|-----|------|
| 大人の参加者  | 初めて   |      | 3 名  | 1 名  |      | 1 名  |     | 5 名  |
|         | リピーター | 1 名  | 4 名  | 5 名  | 2 名  | 2 名  |     | 14 名 |
| 子どもの参加者 | 初めて   | 3 名  | 2 名  | 7 名  | 5 名  | 4 名  | 2 名 | 23 名 |
|         | リピーター |      |      | 3 名  |      | 1 名  |     | 4 名  |
| 合計      |       | 4 名  | 9 名  | 16 名 | 7 名  | 8 名  | 2 名 | 46 名 |

- 実施内容
  - 12:00：準備開始、サークルルーム内の作業テーブル設営
  - 13:30：参加者、スタッフ全員がサークルルームに集合、  
マンション委員長より挨拶  
ワークショップ講師役の南部より挨拶と説明
  - 13:35～16:00：「空き瓶を灯りとして利用するための装飾・制作ワークショップ」
  - 15:00～17:00：甘酒コーナー、ぜんざいコーナー設置
  - 17:00～19:00：空き瓶灯りを地域の方々に楽しんでもらうための灯りイベント
- 観察調査によるポイント整理
  - ・ 大人との共同作業が進む中、大人と言葉を交わす場面が多く見られた。



- ・ 初めてLODE関連イベントに参加した大人は19名中5名いたが、「子どもの親」であった。また、これまでは参加者が少なかった四番館、五番館からも、それぞれ7名と8名の参加者を得た。
- ・ 灯り瓶400個をマンションの屋外階段部に並べ、17時に点火したが、ワークショップに参加した老若男女だけでなく周辺の住民や子ども達も灯りに魅入っていた。
- ・ 当日は強風で瓶の中のロウソクが消えがちになったが、数人の子どもたちが“火の守り役”を務めた。小学生にとって火を取り扱う機会が新鮮だったようだ。
- ・ 19時に消灯・片付けを行ったが、「自分が制作した灯り瓶を記念として持って帰りたい」という子どもたちが多かった。

● 現場写真



写真19・20：灯りづくりワークショップと点灯後の様子

【第3回目ワークショップ「5年後LODE」の実施延期】

当初スケジュールでは1月に予定していた第3回目のワークショップ「5年後LODE」に関しては、3月26日に実施の予定で調整を進めていた。

しかしながら、マンション側のリーダー（防災減災委員会委員長）に病氣療養の必要性が発生したために、今年度における実施を断念、新年度（28年度）の6月に“取組み1周年”のタイミングでワークショップを実施することとした。

②伊丹市Sマンション（2月27日実施：基本LODE・マンションLODEワークショップ）

a) 対象コミュニティ

- ・ 分譲マンション（計2棟170戸）。

b) 実施前の状況

- ・ 管理組合（所有者組織）と自治会（住民組織）の二輪体制。
- ・ LODE図上ワークショップは平成26年2月、平成27年2月と、過去2年、毎年一度取り組んできた。

c) 実施の経緯

- ・ 自治会長からの要請。

d) 対象コミュニティのキーパーソン

- ・ マンション自治会長。
- ・ このマンションを担当する民生委員1名（マンション居住者）。
- ・ 当該マンションの立地する地区を担当する伊丹市社協の地域福祉担当。

e) LODE実施の狙い

- ・ これまで培ってきたマンション住民間のつながりを維持・増進したい。
- ・ 高齢者がますます多くなるマンションの見守り力を増強したい。

f) 実際の実施内容と実施体制

- 参加者数と参加者層：29名（うち当該マンション居住者27名）

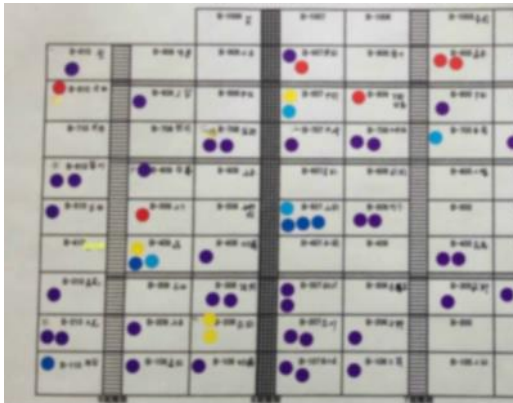
- 実施内容と結果

- 09:30～09:35 挨拶と班分け
- 09:35～09:40 全員で体操
- 09:40～09:45 全員で集合写真撮影
- 09:45～10:00 4テーブルで作業分担して全戸の居住者苗字を記入作業
- 10:00～10:30 4テーブルで作業分担して要援護者や支援者候補にシールを貼る。
- 10:30～10:40 各テーブルから作業結果を発表、それを集計。
- 10:40～10:45 倉原PJ側からの講評・感想（南部）
- 10:45～10:50 ガスカセットによる簡易発電機の体験
- 10:50～11:05 参加者一人一人による感想の発表
- 11:05～11:45 世話役の方々と会食会
- 11:45～11:50 倉原PJからの総括挨拶（倉原）

- 観察調査等から

- ・ 入居者全戸の苗字を記入する作業では、「誰が住んでいるか知らない住戸」・「住んでいる人を間違えて認識していた住戸」の合計が19戸（全体の11.2%）に過ぎなかった。27名（27戸から1名ずつ参加として全体の15.9%）の居住者が88.8%の住戸の情報を掴んでいるということがいえる。
- ・ 4つのテーブルにおける作業中に住民同士で交わされる会話は、①で報告した大規模マンション（図上作業では壁掛け式を採用）と比較すると活発であった。

- 現場写真



|        | 赤 | 幼 | 小  | 中  | 前期 | 後期 | ♡ | 家 |
|--------|---|---|----|----|----|----|---|---|
| A-1班2班 | 0 | 0 | 2  | 1  | 18 | 8  | 0 | 2 |
| A-3班4班 | 1 | 1 | 1  | 0  | 2  | 8  | 3 | 2 |
| B-5班6班 | 0 | 3 | 4  | 4  | 34 | 10 | 2 | 2 |
| B-8班9班 | 0 | 4 | 3  | 5  | 25 | 3  | 1 | 1 |
| 合計     | 1 | 8 | 10 | 10 | 79 | 29 | 6 | 7 |

写真21・22：伊丹市Sマンションワークショップでの図面作業の結果

③伊丹市Cマンション（2月13日実施：基本LODE・マンションLODEワークショップ）

a) 対象コミュニティ

- ・ 分譲マンション（計3棟198戸）。

b) 実施前の状況

- ・ 管理組合（所有者組織）と自治会（住民組織）に加え、自治防災会を組織している。
- ・ 図上ワークショップは平成25年12月に有岡地区で実施した災害図上訓練の研修会に参加、また平成28年2月7日に同地区が実施したLODE研修会に参加。



**c) 実施の経緯**

- ・ 自治防災会長主導で開催。
- ・ 倉原PJ側は観察調査で出席。

**d) 対象コミュニティのキーパーソン**

- ・ マンション自治防災会長（管理組合理事長経験者）。
- ・ このマンションを担当する民生委員1名（マンション居住者）。

**e) LODE実施の狙い**

- ・ 現時点におけるマンションの要援護者情報図を完成させたい。

**f) 実際の実施内容と実施体制**

- 参加者数と参加者層：17名（マンション自治防災会の班長のみ参加）

● 実際手順

09:00～09:05：挨拶と本日の目的の説明（自主防災会会長）  
09:05～09:10：LODEマップづくりの全体説明（民生委員）  
09:10～10:10：一つ一つ凡例の説明と、凡例シール貼り作業を進める。  
10:10～10:20：棟別完成図面の相互チェック・確認作業  
10:20～10:30：締めくくりの言葉と完成図面の掲示（集会所に1週間掲示）

**④他の「子どもLODE」現場（伊丹市昆陽里、京都府精華町など）**

**a) 子どもLODEの狙い**

- ・ 自助力に懸念のある現代の子ども達の自助力向上のための防災学習機会とする。
- ・ 自治会活動にはあまり参加しない30代～40代（子どもの親世代）に対し、子どもの防災学習への機会を利用し、防災活動への参加の重要性や、自治会コミュニティ活動への参加必要性を感じてもらおう契機とする。

**b) 伊丹市昆陽里地区（8月22日実施）**

● 対象

- ・ 小学校区の子供会活動に参加する小学生達

● 実施の経緯

- ・ 昨年度に引き続く実施。
- ・ 毎年恒例の子供会の夏期キャンプ事業の中に、新たに防災メニューを導入する。

● 対象コミュニティのキーパーソン

- ・ 子供会活動の役員たち
- ・ 子供会活動をサポートする社協職員

● 参加者

- ・ 子ども：71名
- ・ 子どもの親等の大人：46名

● 実際手順（会場は小学校体育館）

10:00～：班分け（登下校の地区別）  
10:10～：子ども達の自助力テスト（住所と電話番号を知っているかどうか）  
10:30～：まちかどオリエンテーリングにむけて無線機やカメラなどの取り扱い方説明  
11:00～：地区別の班単位でまちかどオリエンテーリングに出かける  
12:00～：昼食  
13:00～：まちかどオリエンテーリングでメモしたり写したポイントを地図上に整理  
14:00～14:30：班毎に全体に向けて発表

翌08:30～10:30：班単位でストローハウス制作ワークショップ（子どもと大人の共同）

●「子ども達の自助力テスト」の結果

- ・ 「子ども達の自助力テスト」では、小学4年生～6年生27名中、自宅住所、自宅か親の電話番号、親の名前、この3項目を全て正確に書けたのは4名だった。
- ・ 27名中7名は住所を全く書けず、7名は正確に覚えていなかった。
- ・ 27名中14名は電話番号を覚えていなかった。
- ・ 27名中20名は親の名前を漢字で書けなかった。

● 観察調査等からのポイント

- ・ まちかどオリエンテーリングでは、子ども達が通行する地域の人々（知り合いではない人）と会話するシーンが生まれた。
- ・ ストローハウス制作ワークショップでは、最初「子ども達だけが個人個人でパーツを作っている」シーンから、「子どもと親のペアでパーツを作る」シーンへと移行し、さらに「班の中の子ども同士がパーツ作りで情報交換や共同作業に取り組む」シーンが出始め、最後には「班の中の親子が全員でパーツを組み合わせて共同作品を作る」シーンへと移行していく様が観察できた。ストローハウス制作ワークショップには子どもと大人の壁を取り払い、共同作業環境をつくり出していく効果があると思われる。

● 現場写真



写真23・24：親子で熱中するストローハウスづくりワークショップの様子

c) 京都府精華町（3月12日実施）

● 対象

- ・ 町内の全小学生対象

● 実施の経緯

- ・ 昨年度に引き続き精華町社協がLODEイベントを実施。
- ・ 今年度は子どもを対象としたメニューにすることを決定。
- ・ 精華町の全町的イベント『子ども祭り』の中に、新たに防災メニューを導入する。

● 対象コミュニティのキーパーソン

- ・ 社協職員

● 参加者

- ・ 子ども : 68名
- ・ 子どもの親等の大人 : 39名

- 実際手順（会場は精華町体育館）
  - ・ 9時半～12時半の3時間、防災学習会場をオープンする。
  - ・ 会場内には「防災紙芝居コーナー」、「ほのぼの灯りづくり体験コーナー」、「ストローハウスづくりコーナー」、「防災クイズ・テストコーナー」を設置して、来場する子どもたちに体験させるという形式をとった。
  - ・ 4つのコーナーを全て体験するには40分～50分程度要するものと思われる。
- 「子ども達の自助力テスト」の結果
  - ・ 「子ども達の自助力テスト」では、小学4年生～6年生35名中、32名が自宅住所を正確に書けた。これは伊丹市昆陽里の状況とはかなり異なる。
  - ・ また、この地域の子どもたちには、地図上で自宅を見つけることがさほど難しいことではないようだった。
  - ・ 学研都市に住む親ならではの熱心さによるものではないかと思われる。
- 観察調査等からのポイント
  - ・ 親が子どもを連れてくる、或いは親が子どもに付き添うというスタイルが多かった。この地域の親の子育てや教育への関心の高さをうかがうことができた。

● 現場写真



写真25：親子で防災紙芝居を鑑賞



写真26：地図上で自宅や通学路を探す作業

⑤「障害者LODE」現場（鈴鹿市）

a) 対象コミュニティ

- ・ 障害児を持つ家族及び療育センター職員。

b) 実施前の状況

- ・ 鈴鹿市全域から発達障害を抱える約200名の未就学児とその親が週に2～3回通う施設である。抱える症状や年齢に応じてクラス分けをしている。
- ・ 発達障害は学説上遺伝ではないと言われているが、実際は親も発達障害傾向を抱えているケースが少なくない。
- ・ またこうした親の中には、自分の子どもの障害を認めたがらない親、地域コミュニティとの関係が希薄な親も存在する。

c) 実施の経緯

- ・ 障害を抱える者とその家族は、自治会などのコミュニティとの関わりが希薄であることから通常のLODEワークショップでは障害者対応の研究を実施することが困難である。そこで、平鈴鹿市療育センターにLODE調査への協力を依頼していた。

d) 対象コミュニティのキーパーソン

- ・療育センター所長（社会福祉協議会）

e) LODE実施の狙い

- ・LODEにおける障害者対応（Dの部分）の調査研究。

f) LODEワークショップ実施前の準備・計画

- ・障害児を対象とした調査においては、親に信用してもらえないと調査そのものが不可能になるケースもあり得る。“土足で家に上がる”類の姿勢は厳禁であることは当然であり、親子に負担をかけないペースや環境で接することが重要である。
- ・このため事前に時間をかけて職員と話し合うこととした。

g) 実際の実施内容

●参加者数（調査対象者数）

- ・【1回目】12月17日～：家族83組
- ・【2回目】1月26日～：家族73組

●実施内容

- ・1回目は、親子に「三種の神器箱」と「避難所で使用できる歯ブラシ」をプレゼントしながら、簡単な会話の機会を持った。その上で「災害に備えて、家で用意しているもの・こと」、「災害に備えて、子どものために用意しているもの・こと」についてポストイットで回答してもらった。
- ・2回目は、「もし地震で避難する場合に何を持って、何処に避難するか」と「避難時で想定されるトラブル」や「トラブルが発生した場合の相談先」等について簡単なアンケート調査を行ったが、まずその調査内容や留意点を20名の職員に教え、次に職員が親に対して調査するという方式をとった。

●調査結果から

- ・災害発生及び避難時には相当のトラブルが懸念される結果であった。
- ・極度の偏食を抱える子、薬剤やオムツを必要とする子が少なくない。
- ・ADHDを抱える子の親は「動き回って他人に迷惑をかけるのではないかと」、またASDを抱える子の親は「環境に落ち着けずにパニックを起こすのではないかと」不安を感じている。
- ・しかし、平時から対応策を講じられている親は皆無で、ほとんどが「毎日が大変で何も考えられない。特別な対策は講じられていない」と答えた。

| No.               | 1      | 2         | 3            | 4     | 5     | 6    | 7         | 8     | 9    | 10   | 11          | 12        | 13        | 14   | 15       | 16   | 17    | 18    | 19   | 20   |
|-------------------|--------|-----------|--------------|-------|-------|------|-----------|-------|------|------|-------------|-----------|-----------|------|----------|------|-------|-------|------|------|
| 質問：子どもの為に準備しているもの | 家具倒壊防止 | 避難場所の確保点検 | 子供への指示子供との約束 | 子供の服  | オムツ   | タオル  | おやつ子供の食べ物 | 飲み物・水 | ミルク  | 玩具など | 持ち出し袋非常用カバン | 防災頭巾ヘルメット | 薬お薬手帳母子手帳 | 救命胴衣 | 車からの脱出道具 | 写真   | なし    | 読んでいる | その他  | 無回答  |
| 回答者総数83人          | 1      | 5         | 6            | 9     | 20    | 1    | 22        | 6     | 4    | 4    | 4           | 4         | 4         | 1    | 1        | 1    | 21    | 1     | 4    | 8    |
|                   | 1.2%   | 6.0%      | 7.2%         | 10.8% | 24.1% | 1.2% | 26.5%     | 7.2%  | 4.8% | 4.8% | 4.8%        | 4.8%      | 4.8%      | 1.2% | 1.2%     | 1.2% | 25.3% | 1.2%  | 4.8% | 9.6% |

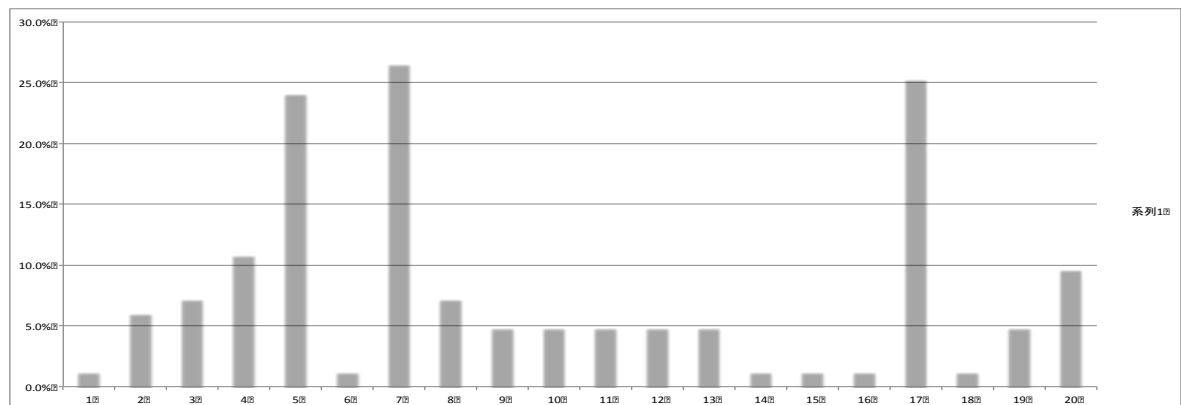


図 10：災害時に備えて子どものために準備しているもの

## ⑥「導入LODE」現場（大阪市西成区：6月29日実施）

### a) 導入LODEの狙い

- ・ より多くのコミュニティリーダーたちにLODEを知って実践してもらうために、市区町村単位などの広いエリアで予備的に行う「導入LODE（予備LODE）」とする。

### b) 対象及び参加者

- ・ 西成区全区の民生委員や地域見守りボランティア約200名

### c) 実施の経緯

- ・ 西成区社会福祉協議会職員から南部への講演会講師依頼（当該職員には、講演会によってその後の地域活動活発化のための契機としたい狙いがあった）。

### d) 対象コミュニティのキーパーソン

- ・ 社会福祉協議会職員

### e) 実施手順

- ・ 約1時間の講演というスタイルで、阪神大震災後のDIGの発案、DIGからLODEへ進むこととなった経緯、さらには災害時に弱者となる要援護者のこと、その対応の考え方などについて述べた。

### f) 参加者アンケート

- ・ 概ね好評な結果となった。

表11：西成区におけるLODE講演会（予備LODE）に対する参加者の感想

#### 1) 講演会の時間配分(1時間)は適切であったでしょうか？

|       |    |       |   |       |     |     |
|-------|----|-------|---|-------|-----|-----|
| 5(長い) | 4  | 3(適切) | 2 | 1(短い) | 無回答 |     |
| 7     | 20 | 110   | 1 | 0     | 5   | 143 |

#### 2) 講師の話し方は、分かりやすかったですでしょうか？

|           |    |    |    |           |     |     |
|-----------|----|----|----|-----------|-----|-----|
| 5(わかりやすい) | 4  | 3  | 2  | 1(分かりにくい) | 無回答 |     |
| 93        | 29 | 16 | 14 | 0         | 1   | 153 |

#### 3) 講演の内容は、理解できたでしょうか？

|          |    |    |   |             |     |     |
|----------|----|----|---|-------------|-----|-----|
| 5(理解できた) | 4  | 3  | 2 | 1(理解できなかった) | 無回答 |     |
| 87       | 35 | 17 | 3 | 1           | 2   | 145 |

#### 4) 講演の内容は今後ネットワーク委員会の活動に活かせるでしょうか？

|         |    |    |   |          |     |     |
|---------|----|----|---|----------|-----|-----|
| 5(活かせる) | 4  | 3  | 2 | 1(活かせない) | 無回答 |     |
| 71      | 35 | 26 | 2 | 1        | 3   | 138 |

#### 5) 1～4までの項目を踏まえて講演会に対する具体的な満足度をお答えください。

|         |    |    |   |            |     |     |
|---------|----|----|---|------------|-----|-----|
| 5(満足した) | 4  | 3  | 2 | 1(満足しなかった) | 無回答 |     |
| 78      | 38 | 29 | 2 | 2          | 4   | 153 |

**⑦伊丹市有岡地区（1月30日実施：普及者育成LODE・小学校区つなぎLODE）**

**a) 対象コミュニティ**

- ・ 小学校区の地区（約5,000戸）。

**b) 実施前の状況**

- ・ 平成25年度より、小学校区内を対象エリアとする「有岡小学校地区福祉ネット会議」を設置（まちづくり組織役員、民生委員、災害ボランティア、社協職員、包括支援センター職員、市代表などから構成）。
- ・ 平成25年12月に学校区単位で図上防災ワークショップの講習を開催した（講師役は災害ボランティアネットワーク鈴鹿チーム）。
- ・ 平成26年度は「まち歩きイベント」を実施し、その調査結果を『地区防災マップ』としてまとめた。
- ・ また②のSマシオンで実施した平成26年度LODEにも参加した。
- ・ 平成27年度は『地区防災マップ』の印刷を行ったが、そのために地区内の企業を訪問、協賛金の依頼やヒアリング調査を実施した。

**c) 実施の経緯**

- ・ コミュニティ側のメンバーが講師役を担うことから、倉原PJ側にアドバイス・チェック役の要請があった。
- ・ 1月30日と2月7日の2回、ほぼ同内容の研修会を開催することとし、1月18日に事前準備会を開催した。

**d) 対象コミュニティのキーパーソン**

- ・ まちづくり組織役員、民生委員、災害ボランティア、社協職員、包括支援センター職員、市代表から成る「有岡小学校地区福祉ネット会議」組織を構成している。
- ・ その中でリーダーは、中心役を担う民生委員と、それを補佐する民生委員・災害ボランティア数名である。

**e) LODE実施の狙い**

- ・ これまで2年間学んだLODEを、学校区内の民生委員やコミュニティリーダーたちを対象とした研修会を実施し、学校区内の各单位自治会にLODEの取り組み方を普及させたい（つなぎのLODE）。
- ・ コミュニティ側のメンバーに講師役を担ってもらうことで、LODEのファシリテーター・普及者となってもらうための訓練とする（育成LODE）。

**f) LODEワークショップ実施前の計画**

- ・ 十分な時間をかけて実施前準備を行った。その計画内容は、実際の実施内容とほぼ変わらない。
- ・ 凡例は、地元側検討の結果、独自のものを採用することとなった。

**g) 実際の実施内容と実施体制**

**●参加者数**

- ・ 1月30日：109名
- ・ 2月7日：89名

**●実施内容**

- ・ 次の表に1月30日研修の内容を整理する。
- ・ 2月7日実施分についても基本的に大差はない。

社会技術研究開発

研究開発プログラム「コミュニティがつなぐ安全・安心な都市・地域の創造」  
平成27年度「都市部コミュニティを含めた自助による防災力と復興力を高めるためのLODE手法の開発」  
研究開発プロジェクト年次報告書

表12：伊丹市小学校区での普及者養成LODE・つなぎLODEの実施手順

| 順番   | 所要時間 | 時刻          | カテ                | タイトル                         | 達成すべき目標                                              | 生成物                              | 作業単位                                                                                                                 | 進め方                                                                                                                                                   | 役割                                                                  | 観察       | 記録                                 | ツール                                                                               |
|------|------|-------------|-------------------|------------------------------|------------------------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----------|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 作業1  | 5    | 13:30～13:35 | 導入                | 挨拶                           | 27年度取り組みに関する参加住民のやる気を喚起する                            | 参加住民のやる気                         | 全体                                                                                                                   | 1. 挨拶<br>2. 事前説明<br>・研修上の注意<br>・記録撮影の事前告知                                                                                                             | ●司会：<br>ネット会議事務局（伊丹市社協職員）<br>●挨拶：<br>・地区まちづくり協議会会長<br>・ネット会議委員長     | 倉原、延藤、南部 | 大西、橋、森本                            |                                                                                   |
| 作業2  | 5    | 13:35～13:40 |                   | プロジェクトメンバー紹介                 | 挙手すること、作業へのウォーミングアップを行う                              | 作業しやすい雰囲気                        | 全体                                                                                                                   | スタッフ紹介<br>今回の研修会を企画・運営する「有岡小学校地区福祉ネット会議」メンバーを紹介する                                                                                                     | ●司会：<br>ネット会議事務局（伊丹市社協職員）                                           | 倉原、延藤、南部 | 大西、橋、森本                            |                                                                                   |
| 作業3  | 5    | 13:40～13:45 | 導入                | ウォーミングアップ                    | プロジェクトメンバーを知り、作業へのウォーミングアップを行う                       | 作業しやすい雰囲気                        | 全体                                                                                                                   | 作業：「起きてからここに来るまで何人の方と会話をしましたか？」他<br>1. あとはまるところで挙手願います。<br>2. 結果に対して簡単な評価を述べる<br>3. 各テーブル上の地図や文具等の確認                                                  | ●プレゼンター：<br>ネット会議委員（民生委員）                                           | 倉原、延藤、南部 | 大西、橋、森本                            |                                                                                   |
| 作業4  | 10   | 13:45～13:55 | LODEとは            | プレゼン：阪神大震災から50igへそして今LODEへ   | 防災のための図上WSの意義・意味を理解していただく                            | 参加住民のやる気と理解                      | 全体                                                                                                                   | プレゼン<br>次のような内容の説明<br>①南部美智代等が阪神大震災後DIQを発生し、さらにそれをLODEへと改良発生した経緯<br>②LODE各4文字にこめられた意味<br>③LODEはLOVEをもって行うこと                                           | ●プレゼンター：<br>ネット会議委員（民生委員）<br>●補助者：LODE四枚のプラカードを持つ4人のネット会議メンバー       | 倉原、延藤、南部 | 大西、橋、森本                            | ●LODEの4文字の意味を説明する4枚を大利用紙に説明書きしたもの（絵入り）。                                           |
| 作業5  | 10   | 13:55～14:05 | 自助・助け合いふれあいのまちづくり | 作業：あなたは避難所のマークが書けますか？        | 参加者にまず「避難所」の存在を考えてもらう。その結果を全体で整理し、全員で共有する。           | 参加者たちの「避難所標識」を記したポストイット          | 全体                                                                                                                   | 作業指示<br>①「あなたは避難所のマークが書けますか？」を3分以内にポストイットに書く<br>②ポストイットを回収員に渡す<br>2. 回収されたポストイットを正面ホワイトボード上に分類、整理。全体に傾向を報告。                                           | ●プレゼンター：<br>ネット会議委員（民生委員）<br>●補助者：各テーブルからポストイット回答を回収するネット会議メンバー     | 倉原、延藤、南部 | 大西、橋、森本                            | ●ポストイット大、マジックペン（人数分）<br>●正解となる「避難所」のマークを大利用紙に説明書きしたもの                             |
| 作業6  | 10   | 14:05～14:15 |                   | 作業：あなたが避難所へ行ったとき活かせる特技は何ですか？ | 次に、避難所で自分役割について想像してもらおう。                             | 参加者たちの「避難所で貢献できそうな特技」を記したポストイット  | 全体                                                                                                                   | 作業指示<br>①「避難所でいかにすることができそうなあなたの特技は？」を2分以内にポストイットに書く<br>②ポストイットを回収員に渡す<br>2. 回収されたポストイットを正面ホワイトボード上に分類、整理。全体に傾向を報告。                                    | ●プレゼンター：<br>ネット会議委員（民生委員）<br>●補助者：各テーブルからポストイット回答を回収するネット会議メンバー     | 倉原、延藤、南部 | 大西、橋、森本                            | ●ポストイット大、マジックペン（人数分）<br>●回答を促すためのイメージイラスト3枚（料理する、掃除する、子供の世話をする）の大半説明書き            |
| 作業7  | 10   | 14:15～14:25 |                   | 作業：あなたは有岡がどんな地域になって欲しいですか？   | 参加者にLODEの目的が狭義の防災にあるのではなく、まちづくりにつながるものであることを意識してもらう。 | 参加者たちの「まちづくりの目標」を記したポストイット       | 全体                                                                                                                   | 作業指示<br>①「あなたは有岡地区にどんな街になって欲しいか？」を2分以内にポストイットに書く<br>②ポストイットを回収員に渡す<br>2. 回収されたポストイットを正面ホワイトボード上に分類、整理。全体に傾向を報告。                                       | ●プレゼンター：<br>ネット会議委員福田知子（民生委員）<br>●補助者：各テーブルからポストイット回答を回収するネット会議メンバー | 倉原、延藤、南部 | 大西、橋、森本                            | ●ポストイット大、マジックペン（人数分）<br>●回答を促すための解答例3つ（笑顔、っぱいの地域に、挨拶が行き交う地域に、助け合う地域に）のを大利用紙に説明書き。 |
| 作業8  | 5    | 14:25～14:30 |                   | プレゼン：LODE図上WS作業手順            | LODE図上作業のシールの凡例に関して理解を促す                             | LODEワークシートの基本の手順に関する参加住民の理解      | 全体                                                                                                                   | 各凡例シールの意味を説明する<br>①自宅<br>②65歳以上女性<br>③65歳以上男性<br>④障がいのある方<br>⑤中高生<br>⑥小学生<br>⑦幼児<br>⑧赤ちゃん<br>⑨手助けが必要な高齢女性<br>⑩手助けが必要な高齢男性<br>⑪ペット犬<br>⑫ペット猫<br>⑬お助けマン | ●プレゼンター：<br>ネット会議委員（民生委員）                                           | 倉原、延藤、南部 | 大西、橋、森本                            | ●凡例シート（参加者各人に1枚）                                                                  |
| 作業9  | 35   | 14:30～15:05 | 図上WS              | 作業：標記に要援護者の所在を凡例シールに記録して示す作業 | 参加住民に「自分の地区や住居に居る要援護者」を認識してもらう                       | 各標記参加住民が認識する要援護者情報（住宅地図または立面戸割図） | 班別グループ（自治会別またはマンション別グループ）                                                                                            | 作業：班員同士話し合いながら、凡例に従って、自宅や要援護者シールを貼っていく                                                                                                                | ●プレゼンター：<br>ネット会議委員（民生委員）<br>●テーブルファシリテータ各班1名（ネット会議メンバーが担当）         | 倉原、延藤、南部 | 大西、橋、森本                            | ●有岡全体防災マップ、及び地区別住宅地図またはマンション標記立面戸割図、並びに上掛フィルムシート<br>●凡例シール各種                      |
| 作業10 | 10   | 15:05～15:15 | 図上避難訓練作業          | 参加住民に「火災発生時の避難ルート」をイメージしてもらう | 各標記参加住民が認識する避難ルートの記された地区防災マップ                        | 班別グループ（自治会別またはマンション別グループ）        | 条件：突然笛が鳴り、この会場で火災が発生して自宅まで避難しに帰るルートを開く。風向・風速も指示する。<br>作業：班員同士話し合いながら、各人が地区防災マップ上にルートを記入する。<br>2. 一旦風上に回ってから逃げるルートを説明 | ●プレゼンター：<br>ネット会議委員（災害ボランティア）<br>●テーブルファシリテータ各班1名（ネット会議メンバーが担当）                                                                                       | 倉原、延藤、南部                                                            | 大西、橋、森本  | ●有岡全体防災マップ、並びに上掛フィルムシート<br>●マジックペン |                                                                                   |
| 作業11 | 20   | 15:15～15:35 | 避難所で役に立つ知識の紹介     | 避難所段ボールベッドや段ボール簡易トイレの紹介      | 参加者住民に「防災用品」に対する意識を上げる（面倒くさいという思いを払拭する）              | 参加者住民の物資準備・備蓄等意識の向上              | 全体                                                                                                                   | 1. 地元にある段ボール企業の担当者が組み立て実演（段ボールベッドと段ボールトイレ）<br>2. 参加者住民が思い思いに寝る体験、座る体験<br>3. その他地元の協力・協賛企業の紹介                                                          | ●全体コーディネーター：<br>ネット会議委員（民生委員）<br>●プレゼンター：摂津カーテン社員                   | 倉原、延藤、南部 | 大西、橋、森本                            | ●段ボールベッド、段ボールトイレ                                                                  |
| 作業12 | 15   | 15:35～15:50 |                   | 災害伝言ダイヤルの使い方                 | 参加者住民に被災後の家族との連絡方法を理解してもらう                           | 参加者住民の災害伝言ダイヤルに対する認知度や理解の向上      | 全体で説明及び班別に体験                                                                                                         | 実演プレゼンと体験：災害伝言ダイヤルの使い方説明と体験<br>1. 伊丹市危機管理担当者が117の使用をステップバイステップで全体説明<br>2. 全体説明に合わせて、各テーブルで1～2名ずつ操作体験                                                  | ●全体コーディネーター：<br>ネット会議委員（民生委員）<br>●伊丹市危機管理職員                         | 倉原、延藤、南部 | 大西、橋、森本                            | ●117体験用電話器（各テーブル分）                                                                |
| 作業13 | 5    | 15:50～15:55 | 結び                | まとめと講評                       | 参加者に、外側の目による講評を聞いていただき、次の活動のための意識づくりをおこなう            | 参加住民の次回への意識                      | 全体                                                                                                                   | LODEの提唱者であり、これまで有岡地区のアドバイスを担当してきた南部から簡単な講評を発表                                                                                                         | ●講師者：南部                                                             | 倉原、延藤    | 大西、橋、森本                            |                                                                                   |
| 作業14 | 5    | 15:55～16:00 |                   | アンケート                        | 今回参加への感謝と今後の継続的参加を依頼するとともに、本日の評価・課題指摘の簡単なアンケート調査を行う  | 今後の参加への意欲とアンケート結果                | 全体                                                                                                                   | からお礼と、からアンケートのお誘い。<br>協力者に「高齢者三種の神器入れ」のプレゼント                                                                                                          | ●プレゼンター：ネット会議委員（民生委員）<br>●司会：ネット会議事務局（伊丹市社協職員）                      | 倉原、延藤    | 大西、橋、森本                            | ●アンケート用紙<br>●高齢者三種の神器入れ（人数分）                                                      |



表13：有岡地区において独自に検討し使用した凡例表

| NO. | シルシ |           | 項目            |
|-----|-----|-----------|---------------|
| 1   | ●   | 赤大        | 65歳以上女性       |
| 2   | ●   | 水色大       | 65歳以上男性       |
| 3   | ●   | ピンク大      | 障がいのある方       |
| 4   | ●   | 黄色大       | お助けマン（スケッチ）   |
| 5   | ●   | 水色小       | 中学生・高校生       |
| 6   | ●   | 青小        | 小学生           |
| 7   | ●   | ピンク小      | 幼児            |
| 8   | ●   | 赤小        | 赤ちゃん          |
| 9   | ●   | 赤大+小さい黄色  | 手助けが必要な高齢女性の方 |
| 10  | ●   | 水色大+小さい黄色 | 手助けが必要な高齢男性の方 |
| 11  | い   | 小さい黄色に「い」 | ペット（犬）        |
| 12  | ね   | 小さい黄色に「ね」 | ペット（猫）        |

●参加者アンケート

- ・ 1月30日及び2月7日の参加者のうち56名がアンケートに協力してくれたが、参加者の反応は好評であった。

表14：伊丹市小学校区での普及者養成LODE・つなぎLODE参加者の感想

|       | 大変<br>よかった | よかった | ふつう | あまり<br>よくなかった | よくなかった |
|-------|------------|------|-----|---------------|--------|
| 1月30日 | 7名         | 13名  | 1名  | 0名            | 0名     |
| 2月 7日 | 21名        | 13名  | 1名  | 0名            | 0名     |
| 計56名  | 28名        | 26名  | 2名  | 0名            | 0名     |

● 現場写真



写真27：地域のコミュニティリーダーたちが集まった会場（小学校体育館）



写真28：ポスティング作業「避難所のマークを描いてみてください」の集計作業



写真29・30：

有岡地区の民生委員がファシリテーターとして、事前に準備した説明書きを使って、LODEの意味や、避難時での役割分担について説明している様子



写真31：火災発生時の避難の考え方も、選択肢カードを用意して説明している



写真32：地元企業の協力を得て段ボールベッドの体験



写真33・34：地区の地図と中高層住宅の模式図を使いながら図上ワークショップの実施。地図の上にはビニールシートを被せてあり、ワークショップ終了後は下図と別々に保管できる（個人情報管理を考えた対応）。

## ⑧その他普及者育成LODE（3月5日名古屋市、3月18日鈴鹿市、3月27日大阪市）

### a) 対象コミュニティと実施の狙い

前の⑦で報告した伊丹市有岡地区の事例は、小学校区等の小さな地域単位現場に根ざした普及者・ファシリテーターの育成LODEワークショップといえるが、一方、より広いエリアで活動・活躍する災害ボランティアや社協職員、さらには議会議員等を普及者へと育成するための試みも重要である。

こうした育成のために、仮想の地域やマンションをモデルとして利用したLODEワークショップを3カ所で行った。

- ・ 名古屋市（3月5日実施）：愛知県や名古屋市の議会議員（公明党）
- ・ 鈴鹿市（3月18日実施）：鈴鹿市災害ボランティア研修
- ・ 大阪市（3月27日実施）：大阪市内の社協職員やボランティア関係者

### b) 実施内容

#### ●事前準備

マンションの戸割立面図を作成し、その上に仮想コミュニティモデルを設定しておいた。

#### ELV・階段3カ所タイプモデルケース

|                                |                |                                  |                                  |                |                                 |                                        |                |                                          |
|--------------------------------|----------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------|---------------------------------|----------------------------------------|----------------|------------------------------------------|
| 701号<br>80歳女                   | 1・2号のエレベーター・階段 | 702号<br>54歳男、52歳女<br>19歳女        | 703号<br>52歳男、50歳女<br>19歳男、16歳男   | 3・4号のエレベーター・階段 | 704号                            | 705号<br>74歳男、73歳女                      | 5・6号のエレベーター・階段 | 706号<br>43歳男、41歳女、<br>12歳女、10歳男          |
| 601号<br>72歳女、<br>★41歳男（知的）     |                | 602号<br>72歳女、★74歳男               | 603号<br>★86歳男、81歳女               |                | 604号<br>57歳女、35歳女               | 605号<br>67歳男、63歳女                      |                | 606号                                     |
| 501号<br>80歳女、★83歳男<br>53歳女     |                | 502号<br>60歳男、53歳女<br>27歳女        | 503号                             |                | 504号<br>★82歳女、72歳男              | 505号<br>81歳女                           |                | 506号<br>70歳女、55歳女、<br>52歳男               |
| 401号<br>68歳男、64歳女              |                | 402号                             | 403号<br>73歳男、★98歳女               |                | 404号<br>63歳女<br>●25歳男           | 405号<br>64歳男、60歳女<br>30歳女              |                | 406号<br>71歳男、67歳女、<br>36歳女、★3歳男          |
| 301号                           |                | 302号<br>★84歳女、<br>●50歳女、<br>45歳女 | 303号<br>74歳男、72歳女                |                | 304号<br>24歳男、20歳女、<br>★2歳男、★0歳女 | 305号<br>61歳女、34歳女                      |                | 306号<br>65歳女                             |
| 201号<br>86歳女<br>19歳女           |                | 202号<br>87歳男、82歳女                | 203号<br>52歳女、20歳男                |                | 204号<br>65歳男、60歳女、<br>25歳男      | 205号                                   |                | 206号<br>45歳男、40歳女、<br>●14歳男、<br>11歳男、9歳男 |
| 101号<br>32歳男、35歳女、<br>10歳女、8歳男 |                | 102号<br>空き家                      | 103号<br>★86歳男、<br>★83歳女、<br>57歳男 |                | 104号<br>70歳男、<br>★64歳女（精神）      | 105号<br>85歳女、★60歳男<br>（身体・内部）、35<br>歳女 |                | 106号<br>72歳男、69歳女                        |

★は要介護・要支援高齢者或いは障がいを持つ方や幼児などの要支援者 ●は引きこもりの方

図11：モデルコミュニティ（マンション）の設定図事例

#### ●ワークショップの実施

- ・ 通常の地域に根ざしたワークショップでは、要支援者情報を寄せ集めるところに力点が置かれるが、仮想コミュニティモデルを使用する場合には、まずこのモデル設定に従って凡例を貼ってもらい、加えて図中の網掛け部分に作業テーブル各メンバーの仮住居を設定してもらう。
- ・ その後に発災後避難行動シミュレーションを時間をかけて行った。
- ・ また、大阪市の現場では、ワークショップの後に、当PJが現在試案中の「普及者育

成支援ツール（仮）」の説明を行った。

#### ●現場観察調査によるポイント

- ・ 名古屋市（議会議員）、鈴鹿市（災害ボランティア）、大阪市（社協職員等）いずれの現場においても、各班テーブルでは、質の高い議論が行われていた。
- ・ ⑦の伊丹市有岡の現場がファシリテーター育成の初級レベルとするならば、前記3カ所の現場はファシリテーター育成の中級レベルと目された。
- ・ 大阪では、ワークショップの後に、当PJが現在試案中の「普及者育成支援ツール（仮）」の説明を行ったが、社協職員やボランティアリーダーたちからは賛同・評価の声が上がった。

#### ●現場写真



写真35：名古屋での育成LODE



写真36：鈴鹿での育成LODE



写真37：大阪での育成LODE

### 3 - 3. 研究開発結果・成果

#### （1）ヒアリング調査結果からの分析

LODE手法の標準化に向けて、ヒアリング調査から留意すべきポイントを抽出した。

- ・ 顔と顔が見える地域住民同士のコミュニケーションの促進。
- ・ 手順を標準化することは手法の硬直化を招く。「効果」の標準化を考える。
- ・ 手順（とりわけ凡例設定）に関しては、地域独自のアレンジ要望が少なくない。
- ・ 支援される側も参加できる仕掛けの必要性。
- ・ 各テーマコミュニティがバラバラに存在する地域の中で、情報を生かすことのでき

る人材や体制をつくる必要がある。

- ・ 地域住民の要援護者に対する認識を促す手法。
- ・ 地域の防災活動に対し、より総合的・俯瞰的に提案ができる手法。

## (2) 試行調査実施一覧表からの分析

表1～表3（7頁～9頁）に整理した調査実施一覧表のデータから、LODE研究開発において留意すべきポイントを、次の①～⑤に抽出・整理する。

### ①LODEが活用される場面とLODEの体系（対象コミュニティとLODEの狙い）

- ・ 27年度施行調査では、単位自治会（マンション自治会）での基本LODE、子どもLODE、障害者LODE、小学校区でのつなぎのLODE、全区レベルでの導入LODE（予備LODE）、普及者育成LODEが実施されたが、今後LODEが活用される場面もこのようなジャンルであると思われる。

表 15：LODEワークショップの体系化（案）

| LODEのタイプ                   |         | 対象・エリア                       | 狙い                                                                                    |
|----------------------------|---------|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入（予備）LODE                 |         | 市区町村域、学校区、連合町内会              | ・LODEに取り組む必要性、重要性をより多くの住民にアピールする。                                                     |
| 基本LODE<br>（今LODE及び5年後LODE） |         | 単位町内会・自治会、及び班、マンションの組合等      | ・住民一人一人の自助力を上げる。<br>・共助意識醸成と要援護者情報共有。<br>・将来の守り手育成意識の醸成。<br>・防災訓練・避難訓練。               |
| 補完LODE                     | 子どもLODE | 学校区など                        | ・子ども個人個人の自助力を上げる。<br>・親（子育て世代）の関心を惹きつける。                                              |
|                            | 障害者LODE | 全市・全町域、療育センター・障害者センター等の対象エリア | ・障害者家族同士のネットワーク構築。<br>・私設避難所設置能力養成。<br>・一般住民への周知。                                     |
| つなぎLODE                    |         | 学校区                          | ・学校区内の単位自治会や子ども会、PTA、さらには障害者施設などをつなぐ。<br>・災害時に同じ避難所（学校など）を利用すると思われる住民同士がコミュニケーションを図る。 |
| 普及者育成LODE（地域版）             |         | 基本LODEと同じエリア                 | ・地域の中でLODEファシリテーターを養成する。                                                              |
| 普及者育成LODE（仮想版）             |         | 仮想コミュニティ図を用いるので参加者のエリアは不問    | ・地域を特定せず、広くLODEを普及・指導する人材を育成する。                                                       |

## ②LODEワークショップの規模

27年度実施試行調査から、LODEワークショップのタイプ別に、その適切な規模について考察する。

表16：LODEワークショップ規模の検討

| LODEのタイプ                   |         | 27年度実施モデル                      | 望ましいと考えられるワークショップ等の規模                                                                                                   |
|----------------------------|---------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入（予備）LODE                 |         | 大阪市西成区                         | ・講演会形式であれば数百名規模でも可能                                                                                                     |
| 基本LODE<br>(今LODE及び5年後LODE) |         | 神戸市灘区大規模MS<br>伊丹市MS            | ・単位自治会レベルの100戸～数百戸に対して数%～十数%程度の参加者が望まれる。<br>・避難訓練の場合は数百名の参加も可能であると考えられる。                                                |
| 補完LODE                     | 子どもLODE | 神戸市灘区大規模MS<br>伊丹市昆陽里<br>京都府精華町 | ・100名規模の参加者でも可能だが、その場合は、班をまとめる班毎の指導者が必要である。班は10名程度までが望ましいと思われる。                                                         |
|                            | 障害者LODE | 鈴鹿市療育センター                      | ・ごく少数な人数でなければ実施は困難であると思われる。<br>・身体障害以外の障害者には、ワークショップという言葉に左右されず、まずは対話・コミュニケーションの促進と信頼関係の構築が第一と思われる。                     |
| 普及者育成LODE（地域版）             |         | 伊丹市有岡地区                        | ・有岡地区の場合は100名規模で実施したが、規模としてはギリギリだと思われる。1班につき10名以内、全体で10班までが限度ではないかと思われる。全体コーディネーターの意思や声が行き届くためにはその半分程度の規模までが望ましいと考えられる。 |
| 普及者育成LODE（仮想版）             |         | 名古屋市<br>鈴鹿市<br>大阪市             | 育成LODE（地域版）より高度な検討を行うことが想定されるため、最大でも地域版の半分程度の規模が望まれる。20～30名程度が適当な規模であると思われる。                                            |

## ③LODE推進の担い手・キーパーソン

自治会長などのコミュニティリーダー、当該コミュニティ担当の民生委員、そしてサポーターとしての社協職員、この3種のキーパーソンが存在するモデルの活動が力強い。伊丹市



有岡地区や伊丹市Sマンションが該当する。両モデルコミュニティはLODEに取り組み始めてから2年～2年半継続できていることから、この「3種のキーパーソンが存在する体制」は重要だろう。

一方、神戸市灘区大規模マンションでは社協の関与が無い。加えてLODEへの取り組みは27年度が初めてであることも参加率が低く活動が活性化しきれない原因の一つだろう。

また、伊丹市有岡地区では地元企業にも参画要請し、協賛金ばかりでなくワークショップ開催時にも協力を受けている。こうした視点も必要である。

#### ④LODEワークショップの実施回数や頻度

27年度中に最も開催回数が多かったのは神戸市灘区大規模マンションの5回（LODE図上ワークショップ、報告会、子どもLODE、防災訓練、震災記念イベント）であったが、これは回数回数の限界であったと思われる。

伊丹市有岡地区や伊丹市Sマンションでは25年度、26年度、27年度と取組みを重ねて活動レベルを成長させているが、毎年1～2回の開催（ワークショップや調査イベント）となっている。

これらを勘案すると、図上ワークショップは毎年1回周年事業として取り組むのが適当ではないかと思われる。

#### ⑤LODEワークショップにおいて導入される主なメニューに関する考察

##### ● 図上ワークショップのやり方

27年度は図面をテーブルに置くスタイルと壁掛け式スタイルの両方を試みたが、前者は参加者同士のコミュニケーション促進効果が後者より大きい。また後者は同じ視線から図面を眺めながら作業やコミュニケーションができるという利点がある。どちらを採用するかは現場の規模や狙いによって選択すべきであろう。

##### ● ポストイット作業

参加者の心をほぐすウォーミングアップのメニューとして有効ではないかと思われる。参加者が記入したポストイットを集めて分類整理する作業によって、参加者に質問の内容を定着させる効果も期待できる。

##### ● 個々で取り組む制作作業

長時間にわたり参加者の意識を引きつけ、集中力を発揮させることは難しい。ほのぼのの灯り、新聞スリッパ、高齢者三種の神器箱などの制作体験は、参加者の気分転換にもつながるので、導入しやすいメニューである。

これらは一人一人が取り組むメニューであるが、避難生活で役立つものという意味があることから大人の参加者でも納得して取り組める。

##### ● グループで取り組む共同制作作業

ストローハウス制作ワークショップや、まち歩き・観察は、図上作業以外のグループワークとして導入しやすい。ストローハウス制作は子どもと大人のコミュニケーション促進に役立ち、まち歩き・観察は事後の整理を図上作業に反映させられるため図上作業を机上情報に終わらせない効果が期待出来る。

##### ● 参加者が声を出すこと

参加者の感想や意見は、発表形式を採用することが望ましい。アンケート方式よりも、主催者と参加者という立場を越えて「ファシリテーターやスタッフも参加者も、ともに場を創るメンバーだ」という意識を与え、学んだことを定着させる効果が高いと思われる。



### (3) 基本LODE・マンションLODEに関する考察

次頁の表17は、平成27年度にLODEを実施した3箇所のマンションの比較データであるが、表中のデータからLODEの普及や活用に関する示唆を読み取ることが可能であると考えられる。

#### ①有情報戸数の比率

要援護者情報、支援者候補情報の収集・認識も含め、「有情報戸数の比率」はLODEを活用する上での目安となる。

3箇所のマンションの比較表からは、BとCでは自治会班長などの住民たちがほぼ8割の住戸の情報を掴んでいるのに対し、Aのリーダー層が把握できている住戸は4割に満たない。

#### ②ワークショップへの参加率

1世帯から1人参加すると仮定して（実際そういうケースが多い）、「参加者数÷マンションや自治会の戸数」の比率は、要援護者の情報把握や対応力につながるコミュニティの活性化状況を測る上で、ある程度目安になる数字であるといえよう。

3箇所のマンションうちBはAに比べて参加率が2.8倍以上であるが、有情報戸数の比率もBはAの2.4倍以上となっており、参加者の数がある程度情報数にも比例することを物語っている。

ちなみに、マンションでは両隣住戸と上下住戸とは比較的交流を図りやすいと思われることからおよそ5戸に1戸（図12参照）、また通常の住宅地では向こう三軒両隣という言葉から6～9戸に1戸（図13参照）がLODE参加するならば、大半の住戸の情報は収集できるものと想定される。

LODEワークショップへの参加率も目標はそのラインで設定するのが適当であろう。

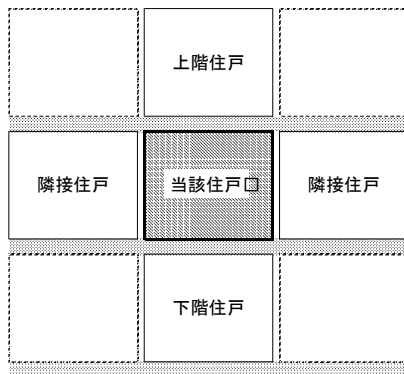


図12：マンション住戸の場合、コミュニケーションを図りやすいと考えられる近接住戸

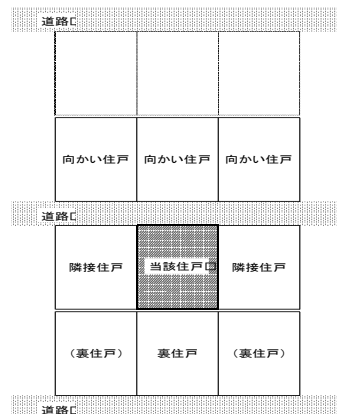


図13：戸建住宅地の場合、コミュニケーションを図りやすいと考えられる近接住戸

#### ③LODEワークショップの継続・反復実施

Bマンション自治会長によると、同マンションの「有情報戸数の比率」が8割を超える理由の一つとして、LODEワークショップの継続的開催があげられるとのことである。28年2月は3年目の開催であったが、毎年実施することで住民（主として班長クラスのリーダー層）が常に近隣住戸・住民のことを意識するようになってきていると感じているようだ。

なお、同自治会長によると、半年に1回の開催は自治会活動にはやや負担となり、それ以上の頻度となるとかなり難しいとのことであった。

表17：27年度LODEを実施した3箇所のマンションの比較データ

| モデルマンション<br>比較項目                                    | A                                                       | B                                                            | C                                                 |
|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
|                                                     | 神戸市灘区M MS                                               | 兵庫県伊丹市S MS                                                   | 兵庫県伊丹市C MS                                        |
| 1) WS 実施日                                           | 2015年6月14日                                              | 2016年2月7日                                                    | 2016年2月13日                                        |
| 2) WS 曜日・時間帯                                        | 日曜日 13:30～15:40                                         | 日曜日 9:30～11:30                                               | 土曜日 9:00～11:00                                    |
| 3) マンション築後年数                                        | 約13年                                                    | 約34年                                                         | 約34年                                              |
| 4) 住棟数                                              | 5棟                                                      | 2棟                                                           | 3棟                                                |
| 5) 総住戸数                                             | 603戸                                                    | 170戸                                                         | 198戸                                              |
| 6) 居住者数                                             | 約1,500～1,800人                                           | 不明                                                           | 不明                                                |
| 7) 居住者のうち中学生                                        | 90～100人                                                 | 不明                                                           | 不明                                                |
| 8) 居住者のうち小学生                                        | 推定180～200人                                              | 不明                                                           | 不明                                                |
| 9) 図面作業の形式                                          | 壁掛け式                                                    | テーブル作業                                                       | テーブル作業                                            |
| 10) WS 出席民生委員                                       | 1名                                                      | 1名                                                           | 1名                                                |
| 11) WS 出席住民層                                        | 防災委員会委員<br>見守りボランティア<br>他一般住民<br>中学生1名                  | 自治会役員<br>自治会班長<br>他一般住民                                      | 自治会班長のみ                                           |
| 12) 参加呼びかけ                                          | ・ 各住棟エントランス<br>でのポスター<br>・ 各住戸案内チラシ                     | ・ 各住棟エントラン<br>スでのポスター<br>・ 班長への呼びかけ                          | ・ 集会所掲示板での<br>告知                                  |
| 13) WS 実施主体責任者                                      | 防災委員会委員長T氏                                              | 自治会長N氏                                                       | 自治防災会長O氏                                          |
| 14) WS 実施主体と管理<br>組合との関係(実施主体<br>責任者へのヒアリング<br>による) | ・ 自治防災会長は元理<br>事長<br>・ 管理組合は防災委員<br>会に対してさほど協<br>力的ではない | ・ 管理組合理事長も<br>WSに出席<br>・ 管理組合と自治会<br>の関係は良くも悪く<br>も無い        | ・ 自治防災会長は<br>元理事長<br>・ 管理組合と自治<br>防災会の関係は悪<br>く無い |
| 以下、WSの結果から得られたデータ                                   |                                                         |                                                              |                                                   |
| 15) LODE WS の実施経験                                   | 無し                                                      | ・ 2013年12月に地区<br>全体のLODEに参加<br>・ 2014年1月・3月と<br>2015年2月単独実施。 | ・ 2013年12月と<br>2016年1月に地区全<br>体のLODEに参加。          |
| 16) WS：参加者<br>(対全戸数比)                               | 33名<br>(5.5%)                                           | 27名<br>(15.9%)                                               | 17名 ※<br>(8.6%) ※                                 |
| 17) WS：有情報戸数<br>(対全戸数比)                             | 221戸<br>(36.7%)                                         | 151戸<br>(88.8%)                                              | 150戸<br>(75.8%)                                   |
| 18) WS：うち65歳以上<br>高齢者のいる住戸<br>(対有情報戸数比)             | 102戸<br>(46.2%)                                         | 95戸<br>(62.9%)                                               | 106戸<br>(70.7%)                                   |
| 19) WS：うち小学生以下の<br>子どものいる住戸<br>(対有情報戸数比)            | 86戸<br>(38.9%)                                          | 17戸<br>(11.3%)                                               | 13戸<br>(8.7%)                                     |
| 20) WS：要援護者人数<br>(対全戸数比)<br>(対有情報戸数)                | 26人<br>(4.3%)<br>(11.8%)                                | 10人<br>(5.9%)<br>(6.6%)                                      | 11人<br>(5.6%)<br>(7.3%)                           |

#### （４）子どもLODEに関する考察

子どもLODEは、基本LODEがなかなか実施できない地域において、子ども対象のLODEから端緒を拓く役割があると思われる。

伊丹市昆陽里地区では自治会による防災活動が低調であった。また京都府精華町でも社協職員が孤軍奮闘するもののなかなか周囲の理解が得られず基本LODEの実施に漕ぎ着けられない中で、子どもLODEから実施するという選択を行った。

さらに神戸市灘区大規模マンションにおいても、第1回目図上ワークショップの後になかなか参加者が増えない中で、「子どもが多い地区（団地）だから子ども活動から指導しないと、子どもや親世代が集まらない」という危機感の中で子どもLODEに取り組むこととなった。

子どもと大人が共同作業を行った同マンションの震災イベントでは、初めてLODE関連行事に参加した大人が19名中5名いたが、いずれも「子どもの親」であった。子どもLODEは、子どもの親世代の住民を引き込むための手立てとして可能性を持つといえよう。

また、伊丹市昆陽里地区で導入したストローハウス制作ワークショップには子どもと大人の壁を取り払い、共同作業環境をつくり出していく効果があると思われる。

#### （５）障害者LODE

LODEの中で最も取り組みが難しいのが、障害者を対象としたLODEであると考えられる。図面を用いるワークショップに取り組むまでには、相当な回数のコミュニケーション（ヒアリングやアンケート調査という理由でコミュニケーション）を重ねながら家族からの信頼を得たり、家族の理解を徐々に促していく必要がある。

また、東日本大震災時にも、先日発生した熊本地震の際にも、地域の避難所（行政から指定された避難所）に入れない障害者の存在が大きな問題となっている。従って、障害者に理解のある専門家が運営する福祉避難所の役割が期待されるが、熊本でも指摘されているように、福祉避難所のキャパシティが圧倒的に不足することは自明である。

よって、指定外の建物を臨時（私設）避難所として設営し、専門家に準じる理解力・対応力を持つ人材を地域に育成していくことが必要となるであろう。

LODEの研究開発においては、こうした在宅福祉支援人材を地域で育成していくことも重要な課題であると認識している。それが3-1で掲げた「潜在するリスクについて、コミュニティの一人一人に、より正しく認識してもらうための手法を目指した研究開発」という当PJの目標達成にもつながるからである。

28年度は、第二次思考調査の中で、こうした私設避難所体験ワークショップ調査等に取り組む予定である。

#### （６）人材育成の状況と成果

##### ①小学校区での協議会体制による事例

人材育成面で平成27年度に成果を残した事例として、伊丹市有岡地区の取り組みを上げることができる。

この体制による育成LODE・繋ぎLODEの実施は、26年度の事例・成果より一歩先に進んだ成果として評価できる。

この取り組みを実施した体制も、次図のように、倉原PJの関与度がかなり薄くなっており、26年度事例より進歩したものといえよう。

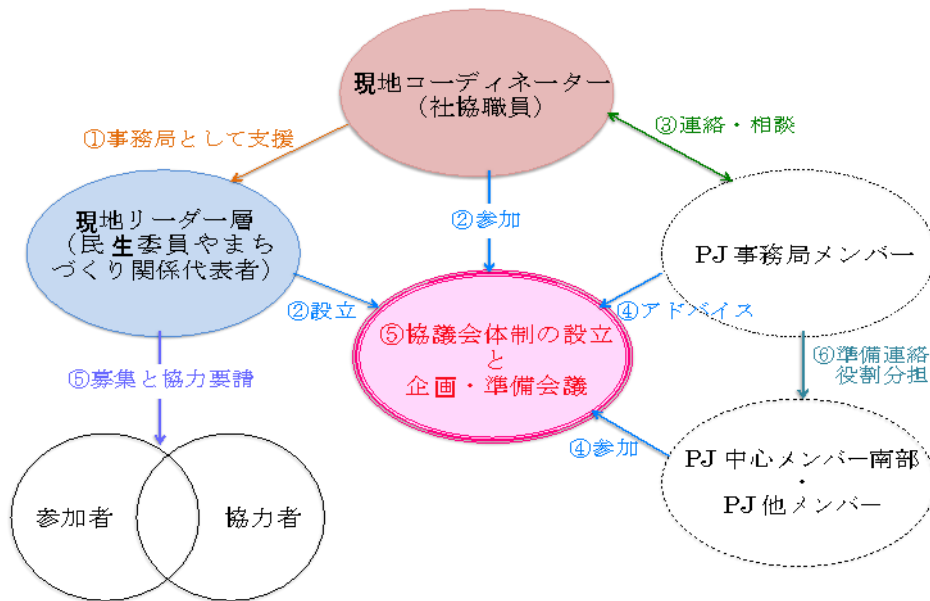


図14：伊丹市有岡地区における体制図

## ②地域を越えた育成LODEワークショップ

有岡地区の取り組みは、地域における取り組みの中でリーダー層を育成していこうとするものであるが、一方名古屋市や鈴鹿市、大阪市で実施した「広域から集まったファシリテーター候補者にLODEの普及方法を伝えるための育成LODE」も効果があったと手応えを感じている。

この育成ワークショップでは仮想コミュニティモデルを利用することから、参加者の居住地にとらわれない。

また、シール貼りの時間を短縮することができるため、実際の地域で実施するLODEに比べ、発災後の避難行動や避難所生活における注意ポイントや、平時からの準備活動に関する検討に時間を割くことができる。

自治会長や班長レベルの人材育成は地域版によるが、社協職員や市町村域を越えてで活動する災害ボランティアなどに対しては、仮想コミュニティモデルによるワークショップが有効であると思われる。

28年度は、仮想コミュニティモデルを増やし、2～3回の研修会プログラムでファシリテーターを育成していく内容のプログラムの開発と検証に取り組むたい。

## （7）LODEファシリテーター育成支援ツール開発試案

3-3（1）で整理したヒアリング調査からのポイントを具体化していく検討は、LODE手法の標準化、さらには普及のために重要である。

ここでは「マンダラチャート」の考え方を活用して試案開発中である『LODEファシリテーター育成支援ツール』等について報告する。

### ①マンダラチャート図の活用による「目標」と「手段」の一体化

手順を標準化（固定化）してしまうと、手法の硬直化につながりやすいことは前にも述べ

た。そこで、当PJでは研究会を重ね、次のような大目標と中目標・小目標（手段やチェックポイント）が一体化した目標設定シート「マンダラチャート」の考え方を利用した『マンダラチャート方式によるLODE活動到達目標図・表』を試作した。

- 大目標（1つ）：LODE手法の標準化
- 中目標（8つ）：
  - L（要援護者情報収集と対応・チェックポイント：子ども編）
  - O（要援護者情報収集と対応・チェックポイント：高齢者編）
  - D（要援護者情報収集と対応・チェックポイント：障害者編）
  - E（避難のためのポイント：避難編）
  - 体験（体験を通じた定着・共有化のポイント）
  - 育成（担い手育成のポイント）
  - 繋ぐ（住民・異種コミュニティ同士を繋ぎ協働させるためのポイント）
  - 図面WS（図面ワークショップのポイント）

|               |               |                  |                   |              |               |                 |               |                |
|---------------|---------------|------------------|-------------------|--------------|---------------|-----------------|---------------|----------------|
| 地区に合わせた図面使用   | 作業テーブルでの会話促進  | 要援護者への認識を深める     | 在宅要介護高齢者情報収集      | 予備軍高齢者の情報収集  | 高齢者避難所の調査・計画  | LODEを他者に伝える・教える | 社協職員はコーディネータ役 | 自分たちでWSの企画と運営  |
| 情報の管理に留意      | 図面WS          | コミュニティ力を養うWSの定例化 | 在宅要支援高齢者情報収集      | ○            | 要援護高齢者の自主的申告  | コミュニティリーダーを鍛える  | 育成            | 講師・ファシリテータ役をする |
| 凡例は状況に応じて工夫   | 要援護者・支援者情報収集  | 基本単位は単位自治会       | 基本コミュニティでのLODE WS | 高齢者のことを学ぶ    | 高齢者参加のWSや避難訓練 | 導入LODE予備LODE講習会 | 育成ツールを活用する    | 関係機関参画の体制づくり   |
| 体験型作業重視のWS    | 子供の自助力を高める    | 子ども会や学校単位でWS     | 図面WS              | ○            | 育成            | 避難訓練            | 自他の困り事を想像させる  | 必要物資を考える・準備する  |
| 共同作業重視のWS     | L             | 大人が子どものことを知る     | L                 | LODEの標準化     | E             | 発災時避難を想像させる     | E             | 避難所生活を想像させる    |
| WS作業班は小地区単位   | 親や地域人を引き込む    | 様々な子どもが一同に参加     | 繋ぎ協働              | D            | 体験            | 私設福祉避難所の計画      | 被災者経験談から学ぶ    | エトランゼ（外国人）への対応 |
| 子ども会とPTAの合同WS | 参加者同士の会話促進    | 井戸端サロン型活動        | 障害者・家族の自主的申告      | 重度障害者情報収集    | 障害者避難所の調査・計画  | 障害者や外国人と会話体験    | 逃げる体験         | 避難所生活の模擬体験     |
| 小学校区での合同WS    | 繋ぎ協働          | 会食会握手会           | 在宅身障者情報収集         | D            | 障害者参加のWSや避難訓練 | みんなの前で発言する体験    | 体験            | 炊き出し体験         |
| 擬似家族関係の発見と構築  | 要援護者と地域のマッチング | 物資備蓄活動での繋ぎ       | 障害のことを学ぶ          | 知・精・発（障）情報収集 | 家族の理解を得る進め方   | 防災機器操作・使用体験     | 共同制作作業体験      | まち歩き共同確認作業体験   |

図15：マンダラチャート方式によるLODE活動目標図

表18：マンダラチャート方式によるLODE活動小目標リストの一部事例  
(8つの中目標のうち「子ども編」と「図面ワークショップ編」について)

|       | 小目標・ポイント         | 説明・具体的な方法・留意点など                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | これまでの施行調査での実施・言及・確認                                                                                                                                                                                                                             |
|-------|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| L-1   | 子供の自助力を高める       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●「親の氏名・住所・電話番号」テストの実施と、結果速報の発表と表彰。震災迷子にならない能力、これは子どもの自助力の基本と考える。</li> <li>●結果を親に知らせる(「小学生の大半が住所・電話番号を覚えていない」という状況を理解できていない大人が大半である)。</li> </ul>                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>※自宅住所と電話番号を覚えていない小学生が多い。親の名前さえ書けない子がいる。震災時迷子の発生が懸念される。(2015年8月22日伊丹市昆陽里WSで確認)</li> </ul>                                                                                                                 |
| L-2   | 親や地域の大人を引き込む     | <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会への参加度が低い30代～40代の世代を、地域防災活動に引き込むためには、子どもの安全安心やその活動に関心をもってもらう必要がある。</li> <li>●PTA(親)対象のLODEワークショップを実施してみる</li> <li>●親子で一緒に共同作業できるメニューの導入(ストローハウス制作、まち歩き・頭上確認ワークショップ)</li> </ul>                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>※ストローハウス制作WSの効用に関しては2015年8月22日伊丹市昆陽里WSで確認</li> <li>※灯りづくりWSの効用に関しては2016年1月17日神戸市灘区MSのWSで確認</li> </ul>                                                                                                    |
| L-3   | 大人が子どものことを知る     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●要支援者(子ども)についての説明資料・説明パワポを利用する。</li> <li>●子どものWS取り組みの様子を実際に見てもらう。</li> </ul>                                                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>★2015年度昆陽里で、子どもの自助力の状況報告を親にした以外には実施できていない。</li> </ul>                                                                                                                                                    |
| L-4   | 子ども会や学校単位でWS     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校区単位で取り組める地区子ども会等でのLODEワークショップを実施する。</li> <li>●学校主催での実施の場合、教員の認識・意識の不足が懸念される(横並びを意識しすぎる)が、金石東中学校の事例もあるので有効な場合もある。</li> </ul>                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>※学校単位(2014年度鈴鹿市N小など)</li> <li>※子ども会(2014年度昆陽里、2015年昆陽里など)</li> <li>※地区・自治会単位(2015年度神戸市灘区MS)</li> </ul>                                                                                                   |
| L-5   | WS作業班は小地区単位      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●グループワークは学校区内の小地区別の班単位で行う(集団登下校の場合にも有効)。</li> <li>●図面を使用するWSの場合は、次のような情報を図示させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅、学校、避難所、公衆電話、医療機関の凡例</li> <li>・交通機関や道路の図示、災害時ハザードの図示</li> <li>・通学路や避難路の図示</li> <li>・気になる人(お友達、乳幼児、高齢者、障害者)</li> <li>・犬や猫</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>※学校単位(2014年度鈴鹿市N小など)</li> <li>※子ども会(2014年度昆陽里、2015年昆陽里など)</li> <li>※地区・自治会単位(2015年度神戸市灘区MS)</li> </ul>                                                                                                   |
| L-6   | 共同作業重視のWS        | <ul style="list-style-type: none"> <li>現代の子どもたちはゲームの影響が、複数人で一緒に取り組む機会が十分ではないといえる。班単位作業を導入し、例えば次のような体験をさせる。</li> <li>●地図をもとにまち歩きを確認させる。</li> <li>・災害時危険箇所の確認</li> <li>・私設避難所候補の確認</li> <li>・友達同士の自宅場所確認</li> <li>・デジカメを持たせて即時プリントアウト</li> <li>●ストローハウス制作ワークショップ</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>※学校単位(2014年度鈴鹿市N小など)</li> <li>※子ども会(2014年度昆陽里、2015年昆陽里など)</li> <li>※地区・自治会単位(2015年度神戸市灘区MS)</li> </ul>                                                                                                   |
| L-7   | 体験型作業重視のWS       | <ul style="list-style-type: none"> <li>共同作業と同様、現代の子どもたちに不足していると思われる「体験型作業」も重視する。</li> <li>●地図をもとにまち歩きを確認させる。</li> <li>●トランシーバーの扱い方を教えて、まち歩きで利用させる。</li> <li>●ほのぼの灯りづくりと灯りイベント</li> <li>●新聞スリッパの制作</li> <li>●高齢者三種の神器箱制作</li> <li>●ストローハウス制作ワークショップ</li> <li>●家庭へのお手紙(参加報告)を書かせる</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>※学校単位(2014年度長太小など)</li> <li>※子供会(2014年度昆陽里、2015年昆陽里など)</li> <li>※地区・自治会単位(2015年度摩耶SPE)</li> </ul>                                                                                                        |
| L-8   | 様々な子どもが一同に参加     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●軽度であれば特別支援学級の発達障害や知的障害の子どもと一緒に取り組む。</li> <li>災害時は、通常学級の子どもも特別支援学級の子どもと一緒に避難するケースが考えられる。一緒に取り組むことで「自分とは少し違う存在」を認める気持ちを養う。</li> </ul>                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>※子ども会(2014年度昆陽里、2015年昆陽里など)では、軽度知的障害の子どもの通常の子どもの中で一緒に取り組むことができた。</li> </ul>                                                                                                                              |
|       | 小目標・ポイント         | 説明・具体的な方法・留意点など                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | これまでの施行調査での実施・言及・確認                                                                                                                                                                                                                             |
| Map-1 | 要援護者・支援者情報収集     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●第一の目標である。</li> <li>●要援護者情報だけでなく支援者候補を浮き上がらせることが目標となる(それが出ないとコミュニティ自助力にならない)</li> </ul>                                                                                                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>※神戸市灘区MS、伊丹市SMS、伊丹市CMS、伊丹市有岡地区等で実施</li> </ul>                                                                                                                                                            |
| Map-2 | 要援護者への認識を深める     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●要支援者についての説明資料・説明パワポを利用する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>※2014年度伊丹市SMSと2015年6月14日神戸市灘区MSで一部実施</li> </ul>                                                                                                                                                          |
| Map-3 | 作業テーブルでの会話促進     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●要援護者情報の収集と並ぶ最大の目標は「コミュニケーションできる人的関係作り」である。</li> <li>●テーブルを囲む方式、壁掛け図の前に集まる方式、どちらが適しているかを企画で話し合う。</li> </ul>                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>※壁掛け図の前に集まる方式は2015年6月14日神戸市灘区MSで実施。</li> </ul>                                                                                                                                                           |
| Map-4 | 基本単位は単位自治会       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本単位は民生委員が1名程度が考えられる(200世帯～500世帯前後)＝単位町内会レベル</li> <li>●班単位でも可能、また連合町内会レベルでも可能</li> </ul>                                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>※単位自治会としては、神戸市灘区MS、伊丹市SMS、伊丹市CMS等で実施。</li> </ul>                                                                                                                                                         |
| Map-5 | 地区に合わせた図面使用      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●戸建て中心地区は平面の住宅地図</li> <li>●マンションは立面戸割図</li> <li>●戸建て・中高層混在地区は、両方の併用</li> </ul>                                                                                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>※マンション型は神戸市灘区MS、伊丹市SMS、伊丹市CMS等で実施</li> <li>※地域住宅地図タイプは、伊丹市有岡等で実施</li> </ul>                                                                                                                              |
| Map-6 | 凡例は状況に応じて工夫      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本は、コミュニティの都合・事情に応じて、自分たちが使いやすく決めること。</li> <li>●初めて取り組む場合のために、「標準モデル」を用意する。</li> <li>●要援護者と支援者の存在を見つけやすい、認識しやすいように決める。</li> <li>●色盲・色弱の住民に配慮する</li> </ul>                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>※2015年年度伊丹市有岡地区では自主的協議により企画した。</li> <li>※2014年度伊丹市せつよう地区や鈴原地区からは、提案どおりの凡例ではなく、自分達で凡例を決めたいという希望が出た。せつよう地区では、「消費者被害に遭った高齢者」という判例も出現した。理由は、消費者被害に遭った高齢者は近所との交流も少なく、認知症予備軍と目される方も少なくないからとのことであった。</li> </ul> |
| Map-7 | 情報の管理に留意         | <ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の取り扱いを問題視する住民の存在に注意しなければならない。そのために、次のような方法を講じることを検討すべきである。</li> <li>●作業して得られた情報は民生委員や自治会役員などが管理する。</li> <li>●アンケート調査や訪問ヒアリング調査などで「災害時避難の目的に限って、個人情報の管理を自治会や民生委員に委ねる」という意思確認を行う。</li> <li>●情報を管理する立場の者は、個人情報取り扱いに関する研修を受講する。</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>※伊丹市有岡地区(2013年度、2015年度)ではビニールシートを図面に被せることで下図に直接記入しない。</li> </ul>                                                                                                                                         |
| Map-8 | コミュニティ力を養うWSの定例化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●情報更新だけでなく、コミュニケーションできる関係を維持・構築するためにも、年に1回程度以上のWSを実施することが望まれる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>※伊丹市SMS(2013年度、2014年度、2015年度)、伊丹市有岡地区(2013年度、2015年度)</li> </ul>                                                                                                                                          |



中目標及び小目標の設定に関しては、28年度の継続調査研究の中で、再度検討を重ねる必要がある。

## ②評価の点数化によるレーダーチャート図の活用による活動の評価・診断

8つの中目標毎に評価点数をつけて、それをレーダーチャート化することで、活動評価資料とすることも可能である。

例えば、次の図は、倉原PJの1名が27年度における神戸市灘区MSでの取り組みに関して、8つの中目標毎に採点（64項目の小目標毎の採点を合計したもの）を試みたものをレーダーチャート図化したものであるが、図面ワークショップや避難訓練、さらには子どもを対象とした取り組みや体験型の取り組みがある程度行なわれていることがわかる。

しかし一方で、高齢者や障害者の把握、それら要援護者への対応、そして情報や活動の共有化や人材育成がまだまだ遅れていることも読み取ることができる。

こうした評価・レーダーチャート作成作業を複数名で行い、それら複数の評価を比較し、差異などに関して議論を行うことで、当ツールをより有効に活用出来ることが考えられる。

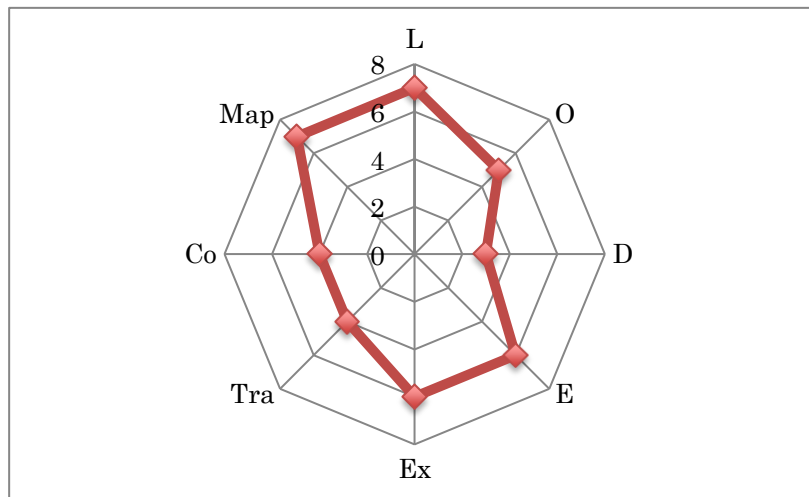


図16：レーダーチャート方式による活動評価・診断図事例

### (10) LODEが苦戦する地域

大阪市西成区で実施した導入（予備）LODEとしての講演会は、参加者からの反応も好評で、その後同区内の自治会等でLODEを実施したいという要請があるものと期待していた。しかしその後1年近く経過するが未だそのような要請はない。

その状況に対し、西成区社協のO氏は、困窮世帯等が多い地域では、他人・他世帯のことに干渉し合うような印象を受けるLODEは敬遠されるのかもしれないと考えているとのことである。

それを裏付けるように、広島市の中心部基町団地（約4千戸の大規模公営住宅団地で、生活保護世帯や外国人世帯が多く、また青少年非行や犯罪に関与する者も多い）の高齢者居場所でも高齢者たちにLODEに関する意見を訊いてみたが、西成区社協O氏と同様な反応であった。

こうした地域では、LODEの実施が難しいといえるのかもしれない。



### 3 - 4. 会議等の活動

| 年月日                        | 名称                             | 場所                | 概要                                                       |
|----------------------------|--------------------------------|-------------------|----------------------------------------------------------|
| 2015年<br>4月15日             | RISTEX 事務局<br>及びADとのミー<br>ティング | 神戸ポート会議<br>室他     | ・神戸市灘区摩耶の大型マンシ<br>ョンを調査対象新規モデルとす<br>る件                   |
| 2015年<br>4月19日             | モデルコミュニ<br>ティへの訪問・提<br>案       | 神戸市灘区Mマ<br>ンション   | ・神戸市灘区摩耶の大型マンシ<br>ョン理事会に対する調査モデル<br>としての取り組み内容提案         |
| 2015年<br>5月8日              | モデルコミュニ<br>ティへの訪問・提<br>案の再確認   | 神戸市灘区Mマ<br>ンション   | ・神戸市灘区摩耶の大型マンシ<br>ョン理事会に対する調査モデル<br>としての取り組み内容提案の再<br>確認 |
| 2015年<br>5月14日             | RISTEX 事務局<br>及びADとのミー<br>ティング | RISTEX別館          | ・研究開発スタイルに関するAD<br>からの指導<br>・6月14日摩耶ワークショップの<br>進め方について  |
| 2015年<br>5月21日             | 鈴鹿市療育セン<br>ター職員との会<br>議        | 鈴鹿市療育セン<br>ター     | ・発達障害児とその家族に対し<br>て可能なLODEの内容について                        |
| 2015年<br>6月10日             | AD及び現地スタ<br>ッフとのミーテ<br>ィング     | 神戸市灘区Mマ<br>ンション   | ・6月14日摩耶ワークショップの<br>直前準備打合せ                              |
| 2015年<br>6月22日             | ワーキングチー<br>ム合宿                 | 沖縄県金武町<br>がらまんじゃく | ・LODE研究開発において必<br>要なデータについて                              |
| 2015年<br>6月26日             | RISTEX 事務局<br>及びADとのミー<br>ティング | RISTEX別館          | ・7月5日摩耶報告会の進め方と<br>準備資料の作成について                           |
| 2015年<br>8月22日             | プロジェクト研<br>究会議                 | 伊丹市昆陽里小<br>学校     | ・今後のプロジェクトの進め方<br>について                                   |
| 2015年<br>9月21日、22<br>日、23日 | ワーキングチー<br>ム合宿                 | 福岡市他              | ・当プロジェクトのワーキング<br>チームと協力者による研究開発<br>の進め方に関する意見交換         |
| 2015年<br>10月5日             | 現場での会議                         | 神戸市灘区Mマ<br>ンション   | ・10月18日防災訓練の事前打合<br>せ他                                   |
| 2015年<br>12月12日            | 現場での会議                         | 神戸市灘区Mマ<br>ンション   | ・1月17日防災ワークショップの<br>事前打合せ他                               |
| 2015年<br>12月17日            | 現場での会議                         | 鈴鹿市療育セン<br>ター     | ・1月25日実施調査の進め方につ<br>いて                                   |
| 2016年<br>1月18日             | 現場での会議                         | 伊丹市有岡セン<br>ター     | ・1月30日及び2月7日実施ワー<br>クショップ調査（LODE普及・<br>指導者養成が主）の進め方につい   |

|                |            |                        |                                            |
|----------------|------------|------------------------|--------------------------------------------|
|                |            |                        | て                                          |
| 2016年<br>1月30日 | プロジェクト研究会議 | 伊丹市長寿蔵                 | ・標準化の考え方について<br>・LODE普及・指導者養成支援ツールの考え方について |
| 2016年<br>2月7日  | プロジェクト研究会議 | 伊丹市長寿蔵                 | ・LODE普及・指導者養成支援ツールの考え方について                 |
| 2016年<br>2月23日 | 現場での会議     | 神戸市灘区Mマンション            | ・3月26日ワークショップ調査の事前打合せ                      |
| 2016年<br>3月5日  | プロジェクト研究会議 | 名古屋市<br>まちの縁側育み<br>隊本部 | ・標準化の考え方について<br>・LODE普及・指導者養成支援ツールの考え方について |
| 2016年<br>3月20日 | 鈴鹿チーム会議    | 広島市<br>みんなが龍馬塾         | ・困窮世帯の多いコミュニティにおけるLODE実施の可能性について           |
| 2016年<br>3月27日 | プロジェクト研究会議 | 大阪市民交流センターひがしよどがわ      | ・LODE指導者養成支援ツール試案の内容について                   |

#### 4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

当プロジェクトは、「研究開発」と「実装」を同時に行っている印象を与えることが多いと思われる。事実、社会に対して実装力のある手法を開発していこうとする場合、机上論だけによる研究開発においては全く無力・無意味であり、当プロジェクトの取り組みが常に「実装」を意識したものであることは否定できない。

また当然であるが、実装の成否には無頓着でデータ収集のみを目的とする研究開発姿勢も問題が大きい。現場コミュニティの協力を得ながら進める調査では、研究開発成果とともに現場コミュニティにとってもメリットを与えるものでなくてはならない。

よって、本プロジェクトにおける研究開発成果の活用・展開は、先ず調査対象モデルコミュニティにおける研究開発を実装レベルでもある程度成功に導き、成功・先導事例として研究開発記録・データとともに発表していくことが基本である。

全国各地の地域コミュニティから注目される成功・先導事例を持つ手法こそがその後の実装段階の展開で力を持つという考え方のもと、次のような展開を図っている。

##### 4 - 1. 先進・先導モデルづくりと手法としての整理・位置づけ

###### (1) 防災活動の立ち上げからLODEによる調査へと展開したモデル

- ・兵庫県伊丹市有岡地区
- ・兵庫県伊丹市有岡地区Sマンション
- ・神戸市灘区Mマンション

###### (2) マンション・中高層住宅団地におけるLODE導入モデル

- ・兵庫県伊丹市有岡地区Sマンション
- ・神戸市灘区Mマンション

(3) 子どもからのLODE導入によって沈滞したコミュニティ防災活動を立て直そうとするモデル

- ・ 神戸市灘区Mマンション他

(4) 障害者を抱える家族を対象にした障害者LODEモデル

- ・ 三重県鈴鹿市他

(5) 地域内の異種コミュニティ同士をつなぐLODEモデル

- ・ 兵庫県伊丹市有岡地区他

(6) 担い手育成先導モデル

- ・ 兵庫県伊丹市有岡地区
- ・ 三重県鈴鹿市災害ボランティア育成

#### 4 - 2. 議会や行政等をとoshした普及展開への働きかけ

2016年3月4日に愛知県議会一般質問において、県防災行政へのLODE導入が論じられた。またその翌日、公明党愛知県本部において、国会議員、県議会議員、市議会議員など約40名を対象に、LODEインストラクター養成用の初期レベル講習ワークショップを実施した。

今後同県内各地でLODEの取り組みにチャレンジする現場の発生が期待されるが、こうした現場での実装促進を、可能な限り成功事例になるように支援するとともに、研究開発面においてもそれらからもたらされる記録・データの活用に努めたい。

いくつかの自治体レベルで先導事例を創出することは、全国各地での実装展開に向けて最も有効な道であると考えられる。

### 5. 研究開発実施体制

(1) 岩手県立大学グループ

①倉原宗孝（岩手県立大学総合政策学部、教授）

②実施項目

- ・ 被災地等におけるヒアリング調査
- ・ 第一次試行調査（監理・分析）
- ・ プロジェクト合同会議等による第一次試行調査の分析と第二次施行調査の設計

(2) 特定非営利活動法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿グループ

①南部美智代（特定非営利活動法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿、理事長）

②実施項目

- ・ 被災地等におけるヒアリング調査（実査同行）
- ・ 第一次試行調査（企画・実査）
- ・ プロジェクト合同会議等による第一次試行調査の分析と第二次施行調査の設計

## 6. 研究開発実施者

研究グループ名：岩手県立大学

|   | 氏名         | フリガナ         | 所属                             | 役職<br>(身分)         | 担当する<br>研究開発実施項目                |
|---|------------|--------------|--------------------------------|--------------------|---------------------------------|
| ○ | 倉原宗孝       | クラハラ<br>ムネタカ | 岩手県立大学<br>総合政策学部               | 教授                 | 統括／全体にわたる調<br>査・分析              |
|   | 金野 万里      | キンノ<br>マリ    | SAVE IWATE<br>もりおか復興<br>支援センター | 事務局長               | 被災地及び県内の地域情<br>報／調査対象の設定／調<br>査 |
|   | 福田 由美<br>子 | フクダ<br>ユミコ   | 広島工業大学<br>建築工学科                | 教授                 | 研究開発全体における分<br>析・アドバイス          |
|   | 加藤 勝       | カトウ<br>マサル   | 盛岡市                            | 政策調整係<br>長         | 被災時及び復興時の各種<br>情報／政策・制度立案       |
|   | 中須 正       | ナカス<br>タダシ   | チュラロンコ<br>ーン大学                 | 博士研究<br>員・兼任講<br>師 | 各種災害情報の提供／調<br>査／分析などの検証        |
|   | 野中 里菜      | ノナカ<br>リナ    | 岩手県立大学<br>総合政策学部               | M2                 | 調査・分析補助／連絡・<br>調整               |
|   | 室岡 夏実      | ムロオカ<br>ナツミ  | 岩手県立大学<br>総合政策学部               | 学生                 | 調査・分析補助／連絡・<br>調整               |
|   | 橘 宜孝       | タチバナ<br>ヨシタカ | みんなが龍馬<br>塾                    | コーディネ<br>ーター       | 被災地調査実査及び分析                     |

研究グループ名：特定非営利活動法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿

|   | 氏名    | フリガナ         | 所属                                        | 役職<br>(身分)    | 担当する<br>研究開発実施項目                                                   |
|---|-------|--------------|-------------------------------------------|---------------|--------------------------------------------------------------------|
| ○ | 南部美智代 | ナンブ<br>ミチヨ   | 特定非営利活<br>動法人災害ボ<br>ランティアネ<br>ットワーク鈴<br>鹿 | 理事長           | グループ統括／LODE 方<br>法論の構築／ 試行調査<br>WS の実施（講師）／試<br>行調査（ヒアリング等）<br>の実査 |
|   | 藤本真由  | フジモト<br>マユ   | 生きる力を育<br>む研究会                            | 代表幹事<br>社会福祉士 | LODE試行調査の協力先と<br>の実査調整／試行調査WS<br>の実査（補助講師）                         |
|   | 橘 宜孝  | タチバナ<br>ヨシタカ | みんなが龍馬<br>塾                               | コーディネ<br>ーター  | LODE方法論の構築／ 試<br>行調査WSの実査（講師）<br>／試行調査（ヒアリング<br>等）の実査／試行調査の        |

|  |      |              |                                           |              | 記録                                                  |
|--|------|--------------|-------------------------------------------|--------------|-----------------------------------------------------|
|  | 大西千佳 | オオニシ<br>チカ   | みんなが龍馬<br>塾                               | コーディネ<br>ーター | 試行調査WSの実施（補助<br>講師）／試行調査（ヒア<br>リング等）の実査／試行<br>調査の記録 |
|  | 森本馨  | モリモト<br>カオル  | 神戸市立西山<br>小学校                             | 教諭           | 試行調査 WS の実施（講<br>師）                                 |
|  | 山本進  | ヤマモト<br>ススム  | （社福）鹿追<br>恵愛会 特別<br>養護老人ホー<br>ムしゃくなげ<br>荘 | 理事<br>施設長    | LODE試行調査WSの実施<br>（講師）                               |
|  | 倉原宗孝 | クラハラ<br>ムネタカ | 岩手県立大学<br>総合政策学部                          | 教授           | LODE方法論の構築／試行<br>調査（ヒアリング等）の<br>実査分析                |

## 7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 7 - 1. ワークショップ等

なし

### 7 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

#### （1）書籍、DVD

・特になし

#### （2）ウェブサイト構築

・特になし

#### （3）学会（7-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

・特になし

### 7 - 3. 論文発表

#### （1）査読付き（  1  件）

##### ●国内誌（  1  件）

・倉原宗孝，防災と福祉を結ぶ市民まちづくり学習としての「LODE」の提起と考察，  
日本建築学会技術報告集，第22巻、第51号，pp.761-766，2016.6（掲載決定）

##### ●国際誌（  0  件）

#### （2）査読なし（  0  件）

・

#### 7 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

（1）招待講演（国内会議\_\_0\_\_件、国際会議\_\_0\_\_件）

（2）口頭発表（国内会議\_\_1\_\_件、国際会議\_\_0\_\_件）

- ・ 倉原宗孝，防災と福祉を結んだ市民参加の安全安心まちづくりに関する考察—『LODE』という手法と思想の実践から—，日本建築学会大会（関東），学術講演梗概集，2015.9

（3）ポスター発表（国内会議\_\_0\_\_件、国際会議\_\_0\_\_件）

#### 7 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等

（1）新聞報道・投稿（\_\_1\_\_件）

- ・ 2016年3月3日発行 中日新聞愛知県版「県議会一般質問」の記事に掲載される。

（2）受賞（\_\_0\_\_件）

（3）その他（\_\_0\_\_件）

#### 7 - 6. 特許出願

（1）国内出願（\_\_0\_\_件）